

愛媛大学教育学部

第127号

同窓会報



愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学教育学部事務課内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-9395

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp

賀 春

元旦

愛媛大学教育学部同窓会役員一同



ご 挨拶



佐野 栄

愛媛大学
教育学部長

新年明けましておめでとうござ
います。同窓会の皆様におかれま
しては、日頃から愛媛大学教育学
部に多大なご支援をいただき、心
より感謝申し上げます。

さて、昨年末、その一年の世相
を表す「今年の漢字」が公表され
ました。平成三十年の漢字は「災」
で、これは、昨年、自然災害が
多発したことによります。昨年
は、七月の西日本豪雨、大阪府北
部地震、北海道胆振大震災、台風
二十一号など、様々な自然災害が
数多く起こった年でした。とりわ
け、七月の西日本豪雨では、愛媛
県でも多くの地域が被災し、未だ
に復旧に至っていない地域も残っ
ている状況です。被災された皆様

に対し、心よりお見舞いを申し上
げます。今回の豪雨災害に関し、
愛媛大学でも多くの学生や教職員
がボランティア活動に参加しまし
た。教育学部には、南予地方の学
校から被災後すぐにボランティア
の要請が入り、対応をさせていた
だきました。被災した学校施設の
復旧作業はもとより、子どもたち
と遊んだり勉強をみてあげたりし
たようです。このボランティア活
動に参加した学生は、子どもたち
とのふれあいを通じて、教職への
意識が一層高まったようです。

また秋以降には、教育学部在籍
の学生が起こした事件が新聞紙上
を賑わせてしまいましたこと、心
よりお詫びを申し上げます。将来
教師を目指そうとしている教育学
部の学生が、あのような事件を起
こしてしまつたことは、学部とし
て残念でなりません。教育学部と
して、今後二度と同じような事件
を起こさないよう対応について検
討を進めているところです。温か
い目で見守っていただけましたら
幸いです。

「災」で象徴される一年と申し

ましたが、教育学部にとつては
「災」のみの一年ではありません
でした。二〇二〇年度組織改編に
向けた作業も着々と進行した年で
した。二〇二〇年度より、教育学
部は、現行の学校教育教員養成課
程と特別支援教育教員養成課程の
二課程が、学校教育教員養成課程
に一本化されます。また、大学院
教育学研究科は、教育実践高度化
専攻(教職大学院)と心理発達臨
床専攻の二専攻に改組されます。
教育実践高度化専攻には、現在の
リサーチ開発と教育実践開発
の二コースに加え、教科領域と特
別支援教育の二コースが新たに加
わります。いずれのコースでも高
度な専門性をもつ即戦力人材、愛
媛県の学校教育現場を牽引できる
人材を育成します。教職大学院の
定員は十五名から四十名に拡充さ
れます。現職の先生方も是非新し
い教職大学院に進学して一層実力
に磨きをかけてみませんか?一
方、現行の学校臨床心理学の二コース
から構成されていますが、改組後
は、臨床心理士に加え公認心理師
養成にも対応した心理発達臨床専
攻に生まれ変わります。学校教育、
発達支援、精神医療等の分野で、
教員、ソーシャルワーカー、各種
セラピスト等と連携して、心の健
康増進に貢献できる高度職業専門
人を育成します。

さらに、昨年末に嬉しいニュー
スも飛び込んできました。それは、

これまで数年来の念願であった教
育学部二号館の改修工事が、来年
度着工する見込みになったこと
です。改修工事は二期にかけて行わ
れるため、おそらく完成は早くも
二〇二〇年度末になるものと思
われます。新しい教育学部二号館
には、全国にも類をみない新しい
試みが盛り込まれています。それ
は、建物の一階を「愛大教職スト
リート」と位置付け、教員養成か
ら研修機能まで、教員の成長段階
に従った教育を施せるような「通
り(ストリート)」を開設するこ
とです。このストリートでは、教
員の養成はもちろん、最近の教育
事情に対応した、アクティブラー
ニング空間やICTラーニング
ルーム、教材開発室や免許更新講
習、さらに、松山市教育研修セン
ターや愛媛県総合教育センター
等、地域の教育機関との連携を推
進するスペースなどの設置を予定
しています。教育学部に教育現場
の先生方が気兼ねなく足を運べる
ような、相互のコミュニケーション
が取りやすくなるような、そん
な空間を実現したいと思っていま
す。教員の養成・研修を地域とと
もに推進しようとする教育学部の
意気込みを「愛大教職ストリート」
に込めました。

「災い転じて福となす」。昨年の
「災」が、今年「福」に転ずる
ことを祈念して挨拶に代えさせて
いただきます。本年もどうぞよろ
しくお願い致します。

目 次

表紙

「椿」……………安井 明美

題字 元愛大教育学部教授 菊川 國夫

「ご挨拶」……………(1)

愛媛大学教育学部長 佐野 栄

心 響……………(2)

「話し言葉の無力さと大切さ」

障がいのある子どもたちから

学んだこと

伊予市・北山崎小教頭 山内 望

魅力的な話し方講座……………(3)

相手の心を掴むコミュニケーション

とは?

あいテレビアナウンサー 河野 未来

学部最近のニュース……………(10)

・「第九回愛媛大学ホームカミングデ

イ」を開催しました

・教育学部附属小・中学校の連携学校

見学会を開きました

・教育学部留学生歓迎会を開催しまし

た

・教育学部附属学校園で松山市と総合

防災訓練を実施しました

・教育学部も防災訓練を実施しまし

た

職場だより……………(14)

「ピカピカの教員一年生」

新居浜市・大生院小教諭 藤澤 昂佑

「人を大切に」

今治市・波方小教諭 黒田栄太郎

「目指す教師像」

松山市・久米中教諭 瀬川 奈穂

「一年生の子どもと私」

伊予市・郡中小教諭 宇津 博美

「話し言葉の無力さと大切さ」

障がいのある子どもたちから
学んだこと

伊予市
北山崎小教頭
山内 望
(平元卒)

先日、愛媛県小中学校教頭会研究大会で、京都大学IPS細胞研究所(CiRA)副所長の高須直子様のご講演を拝聴した。「IPS細胞と医療の発展」という演題で、山中伸弥先生とのエピソードを織り交ぜながら、IPS細胞技術の可能性やCiRAでのご自身の仕事のことについてお話いただいた。お人柄がにじみ出た柔らかい語り口で、難しい言葉は一切使わず話され、約一時間半の講演があつという間に感じた。話の内容はもちろん興味深かったが、「話す際にどのような言葉を選ぶか」「どのような表情やしぐさで話すか」などの大切さを改めて痛感した。今の自分は、目の前の子どもたちによりよい言葉掛けができてゐるだろうか……。

私は今年度、教員生活三十年目を迎えているが、その内二十七年間は特別支援学校や特別支援学級

で、主に知的障がいや自閉症スペクトラムのある子どもたちの教育に携わってきた。目の前の個性豊かな子どもたちから、様々なことを教えてもらった。なかでも、「話し言葉の無力さと大切さ」については、この子どもたちとの関わりの中で日々考え、そのことに向き合ってきた。話し言葉で子どもを動かそうとしがちな教育実習生には、「発せられた瞬間から消える話し言葉は、この子たちにとって理解できないことが多いかもしれないね」「だからこそ、子どもへの言葉掛けは大切にしたいね」と話してきた。「人のふり見て我がふり直せ」の言葉どおり、実習生に話しながら、そのたびに自分に言い聞かせてきた。



心響

【子どもの立場に立った言葉掛け】

言葉掛け

障がいのある子どもの中には、発達段階や障がい特性によって、

話している人に注目すること自体が学びの目標となることがある。そのような子どもには、「注目して楽しかった!」「先生の話を聞いてよかった!」と思える経験を積めるように働き掛けることが大切である。そうすることで、「話を聞く」という社会的な行動が身に付くだけでなく、互いの関係性が深まり、子どもの主体性が高まったり、他の指導場面や生活全般でよい変容が見られたりする。話を聞いていない子どもがいたときに、直接指導することは否定しないが、「理解できる内容か?」「周りの環境は?」「注目のさせ方は?」等、話を聞けない理由を子ども以外に求める教師の姿勢を大切にしたい。「話を聞くときは、先生の顔を見ること!」と言い聞かせるだけの指導では通用しない。

【子どもを認め、子どもに感謝する言葉掛け】

「子どもが望ましくない行動をしたときに多く関わったり、言葉掛けたりしていないか?」これは、保護者と話すときに、よく話題にしたことである。子どもの望ましい言動を引き出すためには、五つ注意するより一つ褒めた方が有効であるというところは、周知の事実である。しかし、時間や気持ちに余裕がないと、子どもの言動

に対し、否定的な言葉掛けが多くなってしまう。子どもは、どの子も「よりよい自分になりたい」「今よりも大きな自分になりたい」と願っている存在である。その願いに応えるためには、望ましい行動を褒め、認めることも大切だが、子どもが誰かのために何かを行ったり、役割を果たしたりして喜ばれる経験を重ねられるようにしたい。「ありがとう」「君のおかげで助かったよ」といった肯定的な言葉掛けこそ、子どもの成長を後押しする。教師は、このような言葉掛けができるように必要な仕掛けを行ったり、環境を整えたりすることに力を注ぎたい。

以上、障がいのある子どもたちから学んだことの中で、主に言葉掛けについて述べてきた。これらのことは、障がいの有無にかかわらず、全ての子どもと向き合うときに大切にすべきことだと考えている。改めて、子どもたちへの言葉掛けに敏感であるように努めるとともに、目の前の子どもたちからも、日々、様々なことを学んでいきたい。そして、どの子ども学校から帰るときに「明日も学校に来たい!」と思えるような学校づくりのために、微力ながら力を尽くしていきたい。

二十三年目にして二度目の新採気分	伊方町・三崎中教諭	加藤 知己
「簡単な自己紹介」	宇和島市・番城小教諭	兵頭 亨介
祝・叙勲		(19)
支部活動報告		(20)
「日本の伝統文化に触れてみよう」	附属支部長	森本 久美
「防災に関する講演会の実施」	北宇和支部長	博文
「退職してもなお」	南宇和元支部長	若田 正
先輩を偲ぶ		(23)
「あしあと」過去から現在そして未来へ		(25)
第十六回懇親会報告	同窓会事務局	阿部 修一
文芸		(27)
俳句		森 孝枝
絵手紙「ありがとう、至福の時」		井上 弘子
会員の声		(28)
「王舎城の悲劇」		
—「教行信証」の序より—		
		吉原 宏文
放送大学入学生募集		(29)
愛媛大学ミュージアムから		(30)
表紙作品「椿」について		(30)
部活動紹介		(31)
邦楽部の活動		(32)
会報送料・寄付者名		(32)
敬 弔		(32)
裏表紙		(33)
会員写真館	バーバラ郁子	
文芸欄2	井上 弘子	

魅力的な話し方講座 (教育学部サポーター制度)

「私がテレビ局の現場で学んだこと」

相手の心を掴む「コミュニケーション」とは？

講師 あいテレビアナウンサー

河野 未来 氏
(平二八卒)

【はじめに】

教育学部サポーター制度とは教育学部の同窓生を中心に「愛媛大学教育学部サポーター」として登録を願い、教育学部の学生を多方面から支援願おうという制度です。支援の一環として、毎年各種の講座を開講し、好評を得ています。この制度には教育学部同窓会も全面的に協力しています。今後、も会員の皆さんの参考になればとの思いからできる限り講演内容全般を掲載していきたいと思っております。

【講演内容】

みなさんこんにちは。ギッシリですね。

二年半前は私もこちらの席に座っていたということで、とても懐かしい気持ちで今戻ってきています。さっきご紹介いただきましたが、あいテレビでアナウンサーをしています。入社三年目



(二〇一六年に入社) になります。河野未来です。皆さんの先輩というところで今日は講師としてお呼びいただきました。まだ皆さんとはとんど年も変わりませんし、皆さんと同じ目線で色々お話しできたらと思っています。今日は九十分お付き合いください。よろしくお願います。

今日の話ですが、まず私の自己紹介とあいテレビがどんな局かを紹介します。さらにテレビでは言

えないような制作現場の裏側をお伝えしたいと思っています。そして、私がアナウンサーの仕事をする中で皆さんにも役に立つかなということをお話できたらなと思います。

先に、自己紹介をします。こういう講演会をするときにいつも聞いているのですが「よるマチ！」を知っているという方……たくさんいらつしゃる！実は昨日も水曜日の七時から生放送をやっていたのですが見たという方いらつしゃいますか？……あれ？あまりいいですかね？実は松山の新店をご紹介しました。愛媛大学の目の前にある「手に手に」っていうおむすびやさんが新しくできたのを知っていますか？そのお店の紹介など全部で八店舗紹介しました。このような色々な情報を伝える番組を制作しています。私は編成制作部という部署に所属しています。編成というのは番組のプログラムですね。この時間にこの番組を流そう、ということを決めます。制作というのはテレビのニュースや私の出演している「よるマチ！」などをつくる部署なのです。この編成制作部というところでアナウンサーの仕事をしています。ちょっと私の経歴をまとめてみました。九十三年生まれです。

二十五歳で今月末誕生日です。私は西予市の宇和町出身です。宇和小学校、宇和中学校、宇和高校と通って、その間ずっとピアノを続けていました。後ろにいらつしゃる福富彩子先生にはピアノを実際に習いました。優秀な学生ではなかったですが、お世話になりました。で、ずっとピアノをしていたこともあって、音楽に興味がありました。ピアノのコンクールに出たりですとか、吹奏楽部に入ったりクラリネットやトランペット、バスドラネットなどを演奏したりしていました。その音楽の経験があったので愛媛大学の音楽のコースに入ろうと思いついて、二〇一二年に入学しました。教育学部に所属しているとき、愛媛のみかんを全国にPRする「愛媛みかん大使」や「ミズ・オンドアール」という真珠をPRする大使にもなっていました。来年の募集もあるので興味のある方は検索してみてください。そういった経験をする中でテレビやラジオに出演して、全国のアナウンサーの方とお会いすることがあって、なんとなくテレビ局の道が見えたということです。そして、二〇一六年入社ということになりました。今日は大学時代の写真をもってきました。

(一同…おー)

どういう「おー」かな。まずは愛媛みかん大使として北海道札幌雪祭りに行ったときのものです。仕事で行くのでタダでした。(笑) こっちは真珠大使として道後温泉本館前でPRした時のものです。「かわいい」？ありがとございます。大使の経験を通じて全国のテレビに出たりしました。写真に写っている方はすごく印象に残っているアナウンサーです。こういった経験を学生時代にしてきました。

ここからはあいテレビについて知ってもらいたいなと思います。ちょっとでもあいテレビを好きになってもええたらいいなと思って準備してきました。皆さんにちょっと聞きたい事があります。「テレビってどんなイメージですか？どんな番組見ますか？」(と、マイクを向ける)

男子学生…ニュース見ます。あいテレビの。

男子学生…スポーツを見ます。バスケ見ます。あとマンガリンパイレーツの試合とか。

河野…優等生ですね。隣のあなたは？

女子学生…ドラマ。

河野…TBSのドラマ面白いよね。やっぱりそれぞれ好き

ジャンルがあるということですね。あいテレビが放送している番組には色々ありますが後ほど紹介します。

さて、今日はいいテレビの印象を強めてもらうために、ひとつ動画を撮りました。就職活動中のみなさんに紹介する動画なんです。見てあいテレビの様子を知ってください。

(あいテレビの紹介動画)
(映像の中の河野さんのスキップを見て)

私スキップができないんです。番組で何回もスキップをさせられて……まだ練習中。また完成形をお届けできるように頑張ります。

少しテレビの裏側を見ていただきました。さつきドラマがお好きっていつてもらえたのですが、現在あいテレビでは、TBSのドラマ「下町ロケット」「大恋愛」僕を忘れる君と」「中学聖日記」の三つを放送しています。他にも皆さんの手元にあるタイムテーブルみていただけたら分かるのですが「マツコの知らない世界」「王様のブランチ」「モニタリング」「金スマ」「Nスタ」など。あいテレビは六チャンネルでTBSの番組を放送している局なんです。今あげたのはTBSが作った番組で

す。もちろん、私たちあいテレビが作っている自社制作番組もあります。ここからは自社制作番組についてお話しします。

過去の放送になりますが、あいテレビの特徴となる番組をご紹介します。

一つ目、「愛といのちのスペシャル」というのを毎年放送しています。実は先月放送しまして十二回目の放送になりました。定期的な乳がん検診を皆さんに受けてほしいということが始まった番組です。今年も西日本豪雨を被災された皆さんが復興に向けて頑張っている取り組みですとか、乳がん検診のこと、セルフチェックの仕方などをお伝えしました。この当時は「リレーフォーライフ」といまして、スタッフが二十四時間タスキリレーをしたそうなんです。来年もまた秋ごろに放送の予定です。

そして「道の旅人になる」聖地巡礼二〇〇キロの旅」。スペインの巡礼路のカミーノ・デ・サンティアゴを歩いたかなり印象的な番組です。四国遍路とこの巡礼路の不思議な接点を取りあげた番組を制作しました。うちのつくったこの番組はTBSの全国ネットに放送されました。

続いては「心の国境を越えて

誓いのコイン」。坊っちゃん劇場がロシア講演を行ったその舞台裏を密着しました。この方知っていますか？滝香織アナウンサーです。うちの「よるマチ！」にも出演されている滝さんですが、「この誓いのコイン」で主演を務めていました。それがきっかけであいテレビに入社したんですね。ちよつと特殊な例で舞台女優からアナウンサーになった方です。昨日は滝さんの誕生日だったので一緒にご飯食べてきました。

続いて、「新田長次郎一〇〇年大計 その生涯と先見に学ぶ」。これは松山大学の創設者、新田長次郎の生涯を追いかけたドキュメンタリー番組です。こちらはフランスパリに行きまして、撮影を行いました。このようにあいテレビは海外のロケもどんどんやっている局です。予算の関係で何度も何度も行くことは難しいですが、例えば、皆さんも海外、国内でこんなところに行きたい！こんな人がいるから取材したい！など、強い思いがある人はそれを叶えやすいのがうちの局の特徴でもあります。人数が少ない会社なので一人の声が力になる局です。ということで、過去の番組を紹介しましたがここからは今放送している番組について少しご紹介させていただきます。

「Nスタえひめ」、夕方のニュース番組です。昨年十月に「news キャッチあい」が大幅にリニューアルして現在「Nスタえひめ」になりました。皆さんは見ていますか？この時間は授業もあるので見るのは難しいかもしれませんが。やっぱりその日に起きたニュースはその日のうちに、ということなので旬な話題をお伝えしています。私も少し報道に関わっていて、お昼のニュースを担当しています。もちろん真面目な顔でやります。あと私は西予市出身なのでなまってるんですね。自覚はないんですけど、なまりがあるみたいで、間違えると指摘されます。正しいアクセントは基本中の基本。私の課題の一つです。

そしてさつきも「でんのすけのまるっとキッチンカーの旅」という料理の番組も放送しています。愛媛と高知の両方で放送されている珍しい番組です。私も料理するんですよ、こう見えて。(笑)

さらに「金曜ほのぼー」。見たことありますか。朝やっている番組です。微妙な反応ですね、知らないかな？私はスーパーマーケットから毎週中継を七分間しています。実はその全ての台本を作って、打ち合わせもやって……

自分がディレクターとなって仕切りながら放送をやっています。そうした裏話は後ほどお伝えしますが、ぜひ見てください。(笑)

そして、私が一番伝えたい番組、「よるマチ！」です。この番組、水曜日の十九時から放送しています。十九時から二十二時はゴールデンタイムと呼ばれていて、皆さんがよく見てくださる時間帯です。この時間に自社制作番組を放送しているのは県内ではあいテレビだけなんです。他局にも「もぎたてテレビ」「いーよー」「ほーなたてテレビ」「なるちかー」などの情報番組もありますが「よるマチ！」だけがゴールデンタイムに放送しています。ただ情報を伝えるだけでなく、バラエティーということでも笑いを追及しています。



私、愛媛大学にも取材に来たことがあるので、インタビューをしたことある方もいらつしやるかもしれません。皆さんがもつと楽しい嬉しい情報、為になる情報をお伝えできるように日々やっています。

こんな風に色々な番組があります。今日は私がリポートしている写真をもってきました。まず、シーウォーカー。愛南町の海で海底を歩くのはただただ楽しかったですね。また、辛いものも食べます。辛いものは苦手だったんですがリポートを重ねるうちに段々と得意になってきました。

この写真は西予市宇和町、雑巾がけレースで有名な米博物館。実は明日ここに行きます。朝七時に会社を出て、雑巾がけやってきま



す。腰が砕けますよね。(笑)他にもサイクリングをしたり、四国カルストに行ったり、色々なところにお出かけをしています。

みなさんテレビ局に芸能人のイメージがないですか。芸能人、会えます。分かりますか？お笑い芸人の千鳥のお二人ともロケをします。

話したの二分くらいですけど。横澤夏子さんとウド鈴木さんにもお会いしました。最近で私が感動したのは卓球の福原愛さん夫妻。イケメンと美女で感動しました。松山ケンイチさんにも一対一でインタビューしました。緊張しすぎて頭が痛くなりました。あと、ここで言っているの分からないけれど、ジャニーズの嵐のメンバーの玉森裕太さんにインタビューしました。「リバース」っていうドラマで、下灘駅に藤原竜也さんと一緒にいられていて。私ずっとファンだったので入社二年目で会えるなんて、と感動しました。入ってよかったと思った瞬間ですね。

このような華やかな取材もありますし、もつと楽しいこともあります。ここまで聞くとアナウンサーというよりもリポーター？タレント？っていう感じがしますよね。芸能人と会って、話して、みたいな。でもそれだけではないですね、テレビ局の裏側をちょっとだけお

見せたいと思います。こんな一日を普段私は過ごしています。

上とはある日のスケジュール。下は「よるマチ！」がある日のスケジュールです。ちょっと見てもらうと原稿作成というのがあります。私はアナウンサーでもあり、一報道マン、記者でもあります。

ニュースを読む前に朝取材に行きます。カメラマンにあれを撮ってください、これ撮ってくださいって指示をして原稿を書きます。それを大急ぎでまとめてその日の昼のニュースで読むこともあります。バタバタです。髪がぐしゃぐしゃのまま出たこともあります。

原稿を作るほか、編集もやっています。自分でリポートした動画を切り貼りして音楽をつけて、スピーカーという文字や、効果音をつけたり……。『よるマチ！』の番組の編集もしています。アナウンサーってこんなこともするの！ってびっくりした人もいるかもしれません。私も入ってびっくりしました。こんなこともするのかって。編集もするし、原稿も書きます。お店に電話をかけてロケの日程を組んで、ディレクターとして仕切ることもあります。それから「よるマチ！」の本番は一時間だけです。CMも全部挟んだりハーサルで一時間の一連の流れを二時間

かけてやります。まったく同じことを同じ日に二回やります。だから本番中に「さっきもそのボケ言ったやん」とか思いながらやっています。生放送は大きな責任が伴いますので、しっかりと準備することが重要になってきます。

では制作現場の裏側ということでもう少し掘っていきます。皆さんがよく見てくださるVTRって三〜四分で一つのお店を紹介するというものだと思います。実際にどのくらいの時間をかけてお店に取材をしているでしょうか？予想で答えてください。

(マイクを向ける)

男子学生…二時間くらい
女子学生…二時間くらい
女子学生…一時間くらい

皆さん少なめに言っていたら、ありがとうございます。正解はですね、四時間から五時間くらいかかっています。お店に行って、打ち合わせをするほか、お客さんにもインタビューしますし、料理をおいしく撮る必要もあります。湯気ふわあーみたいな。あれ撮るの大変なんです。湯気でなくならないともう一個頼まないといけないから。温度はすごく大切。かき氷やアイスは真夏にもものすごい勢いで溶けていくからベトベトになります。そのたびにもう一回作って

ください、すみませんすみませんって言いながら一生懸命撮影して、「やっとな撮れた！」っていうのが皆さんのいつも見る映像なんです。……という風にかなり時間がかかるんですね。そのいいところだけ放送しています。だいたいこういう感じで放送の流れができています。企画が決まって取材先決めて、交渉して、台本がだいたいできて、リポートして、編集して、皆さんのもとにとどくといった形です。

今日は皆さんに「よるマチ！」の「ラーメンランキング」の映像をもってきました。「よるマチ！」は最近結構ランキングをしているのですが、見たことありますか。先日、松山のラーメン店主が選ぶ愛媛の美味しいラーメン店ランキングを放送しました。実際に百件お電話して、集計してランキングにしました。実は私、第三位と一位のお店に行ってきたんです。この二件すごく大変だったんです。というの、この二つの店は普段取材NGなんです。第三位の店は何年間も取材を断ってこられたお店なんです。ですが今回OKだった、なんででしょうか。ちょっと皆さん考えてみてください。しかも第三位の店のVTRは私が編集しましたので、「河野さ

ん編集したんや」っていう目で見てくださいね。では第三位、第一位を続けてご覧ください。
〜ラーメンランキング放送〜
(VTR後マイクを向けて)

大将アツすぎませんか？行ったことありますか？第一位の松山分校。
学生：行こうと思って行った事ないです。

河野：行きたくなりました？
学生：めっちゃこのラーメン食べたくまりました。

河野：けっこうとんこつの香りが衣山の前通ったとき漂ってきたすよね。好き嫌いあるかもしれませんが、私も最初に食べた時は衝撃でした。ザ・とんこつ！

で全面にとんこつがくるような、二回目に行くとき慣れるんですかね？体になじんできるとささらにファンが増えそうな。（笑）あそこは二、三回行くとさらにファンが増えそうな予感です。

ということで第一位第三位を見ていただきましたが、どちらも取材NGだったんですよ。どうしてOKもらえたのかわかりますか？単純ではあるんですけどね。……

単純に熱意です。実は普段NGしているお店に電話をかけても絶対に断られます。

ディレクターから聞いた話を紹介しますね。まずお店に行きます。第三位のお店はご夫婦がされているお店なんですけどね、わざわざその近くの席に座って注文して、ずーって音を立てながら食べて、スープも全部飲み干して。「はぁー」っておいしそうな顔をして食べるんですって。「めっちゃ好きや〜この中華そば〜」って感じで。そのあとにさりげなく、夫婦に話しかけて「美味しいですね」って。そして仲良くなるんですって。十分くらい話すみだい、人がいないときを狙うんです。で少し仲良くなったタイミンで「実は取材を……」ってお願いするんですって。でもやっぱり断られる、ここで一番大事なのが何で取材がダメなのかを聞くことだそうなんです。さっきのラーメン店主の方は沢山のお客さんがテレビの影響で来てしまうと、常連さんが来られなくなってしまうのが嫌だから、ということでした。お店側にこうした事情があってもこちらとしては紹介したいですよ。そこでラーメンを食べる音だけがいい、一時間で取材を終わらせませうからとお願いしてみる。また、今回はランキングっていう仕組みで、取材できないとランキングが嘘になってしまうこと、プロの選んだプロの味を偽りなく伝えたい

という熱意をもって私たちもやっていることしつかりお伝えすること。こうしたことを伝えることでお店の方がいいよ、とOKしてくださったんです！

第三位のお店、ご主人の似顔絵出ていたのわかりました？あの似顔絵が書いたんですよ。ポップなイラストを使うことでお店に嫌なイメージがつかないようにしました。アポとりのときOKって言われても後からダメだって言われることもある。だから、アポを取り終えたあとにお電話したり、取材に行くまでもう一回食べに行ったりと仲良くなって、当日を迎えました。どうでした？私のラーメンする音。一生懸命音を立てて食べました。

一位のお店も普段は取材NGなんですけど、ラーメン店の店主が選んだ第一位であること、ご主人の熱い思いをしっかりと伝えることを熱意をもって伝え、OKをもらいました。第一位、第三位のお店がテレビに出るのはとても珍しいです。

取材が終わると私たちは一区切りつきます。お店の方はこれからもそのお店を続けていく、これから一生このお店を大切にしていこうという思いがあるわけです。それを私たちが邪魔してはいけな

い。なので、誠意をもって取材をして正しく情報を伝えることが大切です。で、放送が終わったあとに私はお礼をかねて食べにいつてご挨拶をします。そういったテレビの影響を考えながら私たちは放送しています。

続いて、新企画「SAGASE」を紹介します。これまでに一回しか放送したことのない企画で愛媛大学の周辺でグルメバトルをやってきました。クイズをして勝ったものしか食べられないという番組です。皆さんの知っているお店が出るかもしれない。（ご覧ください。）
〜ガチンコグルメバトル
SAGASE〜

(VTR放映後 ガチンコバトルで負けて本当に食べることができなく) ひどいでしょ。どうせこのあとカメラ止まったあとに食べたんでしょって思うでしょ。一口も食べてないです。本当に食べさせてもらえなくて。このお店がどう美味しいかは知らないんです。行ってお肉のおいまでは嗅いだんですけどね、本当に食べられませんでした。一口も。今思い出すだけでも涙が出そうになります。皆さんがお肉が出てきて、食べる瞬間に一緒に口が空いていたのが微笑ましかったです。（笑）ぜひ、

ひめぎんホールの隣にありますので、いいお肉がありますから、特別な日に行ってみてください。こういったチャレンジ企画もやっているのが「よるマチ！」の特徴です。どうでした？
女子学生：とっても美味しそうでした。
女子学生：面白かったです。
河野：こういったお店見たいなところありますか？
男子学生：美味しいものが食べたいので美味しいお店が知りたいです。
河野：美味しいものいいですよ。ね、学生さんだったらコスバも大切ですよ。愛媛大学の周りで好きなお店とかありますか。
男子学生：前にこの番組で紹介されたと思うんですが、「麺や新倉」によく行きます。
河野：オンエア見てくださってありがとうございます。新倉、私もおすすめですよ。じゃあ隣の女の子は？
女子：最近カフェが流行っているんで、かわいいカフェを知りたいです。
河野：カフェ、そうですね。今日ディレクターに言っておきますね。
ということで「SAGASE」を見てもらいました。もう一つ見

でもらいたい企画があつて「四国
遍路愛媛ルート一期一会のせっか
く旅」という番組です。いろんな
イベントでお笑いを披露されてい
るひめころんの齊官昌伍さんがこ
のお遍路の企画では出演してくだ
さっています。ここに私は出てき
ませんが、愛大のすぐ近くのコス
パのいい大盛りのあのお店に行っ
てきたのでそれを紹介します。今
までは全部取材のアポをとって
たお店だったので、このせっか
かく旅はロケの予定がまったく決
まっていないのが特徴です。台本
も構成もなくつとにか、遍路
道があるいて、出会つて人とお話
しをして偶然であつたお店に突撃
アポなし取材をするというのがこ
の企画の一番の見どころ、面白さ
です。

今週は「よるマチ！」はお休み
なんです、来週はこの遍路企画
第十回かな？が放送されるのでま
た見てください。さあどこのお店
が出るのか、楽しみに見てくださ
い。

（せっかく旅（VTR放映）

「ごはん泥棒」でした。皆さん
知っていました？やっぱり人気な
んですね。本当にコスパがよくつ
て学生さん大人気ということで紹
介しました。「ごはん泥棒」って名
前いいですよ、ごはん進みます

よね。ということ「よるマチ！」
の核となる番組を見ていただきま
した。「よるマチ！」みたくなつ
てきたなーって思つていただけま
したか？ぜひ水曜日の十九時から
見ていただけたらと思います。

さてここからなんです、私が

アナウンサーの仕事をしていて、
テレビ局につとめていて学んだ
事、教育学部の皆さんにも役に立
つんじゃないかなということをお
話しさせていただきます。私たちは話
す仕事であると共に話を聞くとい
うのも一つの仕事です。皆さん「イ
ンタビュー」ってどういう意味だ
と思いませんか。マイクを向けて話
を聞くというイメージかもしれま
せん。インタビュは「互いに、相互
に」という意味でビューは「見る、
眺める」ですね。つまり、お互い
に顔と顔を合わせて話す、意見を
交換するというのがインタビュー
です。だいたい私たちがインタ
ビューする時には、こういった話
を引き出したいというのがあつ
て、質問を決めています。けれど
も、質問だけをぶつけていては質
問を投げているだけ。一番インタ
ビューで大事になってくるのが相
手に興味をもつということです。

例えば好きな芸能人は誰ですか、
好きな食べ物は何ですか、血液型
は何ですか、それをただぶつけた

だけではインタビューではないで
すよね。例えば……、

河野…好きな芸能人は誰ですか？

男子学生…桐谷美玲です。

河野…桐谷美玲さんのどんな所が

好きですか？

男子学生…顔です。

河野…直球（笑）顔のどんなパー
ツが好きなんですか？

男子学生…ひきつけられるような
眼です。

河野…メロメロですか？

男子学生…はい。もう十年くらい
好きです。

河野…大ファンですね。

こういう風に、用意していた質
問を一つぶつけると色々疑問がわ
いてきますよね。疑問は相手に興
味をもたないと出てこないですよ
ね。やっぱり相手との会話、キャッ
チボールつていうのがすごく大事
になります。新人アナウンサーの
ときは質問することが精一杯。こ
れを言おう、あれを言おうと決め
ていたことに引つ張られちゃつ
て、答えてくれたことに対しての
リアクションというのができませ
んでした。相手に興味をもつて、
相手を好きになると会話が楽しく
なりますし、相手もノツてきます
よね。相手の良さを引き出したい、
あなたのこういうところを見たい
というのをアピールすることにも



なります。話を聞く時には相手に
興味をもつというのがとても大切
になってきます。皆さん教育学部
ということで、子どもさんと接す
る機会ももちろんあると思います
し、就職面接を受ける時なんかは面
接官の人とも話しますよね。面接
という試験ではあるんですけど、
自分で会話を楽しむという心構え
は大切になると思います。で、特
に難しいインタビュー相手つてい
うのがあります。子どもつてすご
く難しいです。例えば今日イベン
トに行つたとして、「イベント楽
しかったですか」と聞いても「う
ん」しか返つてこない。「美味し
かった？」と聞いても「うん」し
か返つてこない。「うん」しか返つ
てこないのは子どもが悪いのでは
なく、私たちの聞き方が悪いんで

すよね。じゃあどうしたら「う
ん」と言わせずに答えてくれるか
を考えています。例えば「今日は
楽しかった」という言葉を引き出
したい場合、まず関係のない話を
します。「あなたは何歳ですか？」
「お名前は？」「前のカーテン何
色かな？」「今日の空は晴れ？曇
り？雨降つてる？」そうした言葉
のコミュニケーションをとること
によってどのくらい話せる子なの
か、どんな表情をする子なのかを
探つたあとに核になる質問をしま
す。先生になりたいという方は特
に雰囲気づくりつて大切になると
思います。一番大事なのは相手を
好きになること、好きじゃなくて
もその時だけ好きになることで
す。相手に興味をもつてあげて、
答えやすい質問を相手の立場に
なつて考えることが大切です。こ
のことはどこかで皆さんの役に立
つのではないかなと思います。

私たちは聞く仕事もあればもう
一つ、話す仕事もあります。ここ
で一つ皆さんにお手伝いをしてほ
しいんですが、二人の方に壇上に
上がってきてほしいんです。タダ
でとはいいません（笑）上がらな
いかなと思つて「よるマチ！」オ
リジナルグッズをもつてしまし
た。いますか？

（二人の男子学生が主体的に手を



上げる。)

じゃあ！お二人、前に来てもらえますか。拍手！今からお二人にミッションがあります。右左どっちがいいですか？……なんて書いてありますか。

男子学生A…「愛大」って書いてあるどら焼きです。

男子学生B…「パリッとと圧焼きじゃこ天」。

河野…何するか分かりますか？

A…食レポ

河野…おお！正解！食レポターイムスタート！バラエティーをしていると食レポが私たちの仕事の七割くらいを占めています。でもすつこく難しいんですよ。この美味しさを伝えるという仕事をお二人に体験してもらいたいと思います。もちろんはじめてですよ。できなくても、

伝えられなくてもそこは温かい

拍手をお願いしますね！じゃあまずどら焼きからいってみますか。ではテレビ局っぽくいきましようか。「では本番いきま！す！いっすか？五秒前、四、三、二……」

A…こんにちは。これから愛大のどら焼きを食べて食レポしたいと思えます。あ、いい香りですね。(中略)皆さんも食べましよう、以上です。

河野…素晴らしい！すごいなと思つたのは袋を開けてすぐに食べるのが普通ですよ、でも最初になんて言いましたか？

A…おいですか？

河野…そう、素晴らしい。私が今日日伝えたかったことをもうやってくれました。本当にはじめ

A…はい。

河野…すごい。まず香りを言っているっていうのもすごいし、どら焼きの見た目も伝えてくれました。そして「甘い甘い甘い」と三回言うことで、本当に甘いのかって思いますよね。すこくよかったのが表情！パーフェクト！いい顔していました。

A…ありがとうございます。

河野…これは本当に素晴らしい。百点あげたいと思います。あり

がとうございます。このあとに

やるのでしょうか？

B…どら焼きの方がよかったなつて(笑)

河野…これ愛媛大学さんで買った「パリッとと圧焼きじゃこ天」っていう。「じゃこ天なのにノンフライ、パリッととした食感を」……あ、これ言っちゃうと食レポになっちゃうのか。私も実は食べたことがないので味を皆さんに伝えてあげてください。「五秒前！四、三、二」

B…はい、では今日は「パリッとと圧焼きじゃこ天」を食べてみたいと思えます。(中略)じゃこ天なのに揚げてないんですね、はい。

河野…はいOKです！ありがとうございます。ございました！ナイスガッツでした。あの、お二人がこんなにできてると思っていなくて。言いたいなと思つていたことがあったのですが言わなくてもいいかもしれません(笑) まず食べて一言目って私たち絶対使われるんですよ。それをうまく言ってくれましたよね？

B…はい、「パリッパリッ」って。

河野…そう。一番に「パリッ」って食感なんだというのがダイレクトに分かりましたよね。で、「お茶がほしい」これは本心で

すか？考えて言つたのですか？

B…考えて言いました。

河野…そう、私たちも雰囲気で「これコーヒーと合いますね」とか「お茶が飲みたくなりますね」、「おばあちゃんおじいちゃんに送りたいな」とかを言うこともあります。それも全部やってくれた。すこく上手でした。ありがとうございます。二人にも一度拍手をお願いします。

やってみると難しいですよ、伝えることは。全部は伝えることができないんですけど、言葉にするって本当に大変なことです。けれども例えばこのどら焼きも愛媛大学さんと一六本舗さんがコラボで作っているものなんです。「一六さんかあ、地元企業も頑張っているんですね」とかプラスアルファのコメントをするために事前打ち合わせを私たちはしっかりとやります。相手の方の意図というのをきちんと言葉にするためにしっかりと打ち合わせをしています。で、お二人とも表情もよくつて「美味しい」っていう時も目をつぶって「うん、美味しい」つてやるの目はあけて「美味しい！」つてやるのは伝わり方が違いますよね。テレビを通じて言葉と表情で相手に伝わるように食レポをしています。一番大事なのは

テレビで伝わらないものです。に
おいや温度は食べた者しか分らないので言葉にしてしっかり伝えようって心掛けています。よく、本当に美味しいの？全部食べてるの？ほとんど残してるんじゃないの？つて言われるんですけど、ちゃんとスタッフ全員で完食しています。で、美味しいものを紹介しようって決めているので基本全部美味しいです。苦手なものとかもあるのはありますが、その良さを伝えられるように気を付けています。そして、視聴者の視線で相手は何を知りたいかなとか、どうやったらうまく伝わるかなというのを考えながら伝えるようにしています。よくおじいちゃん、おばあちゃんに伝えるならどう伝えるか、と考えています。ゆつくり丁寧に、あと表情や間などで伝えることを意識しています。

時間も迫ってきているようなので最後になるんですが、恥ずかしながら私はアナウンサーをずっと目指してきてたという訳ではありません。大学生の頃は本当に夢がありませんでした。何になりたいの？と聞かれても答えられなかつたんですが、それがなぜアナウンサーの道につながったのかと、周りが一番大きかったですというの

す。みかん大使とミズ・オンド
アールという二つの大使を経験し
て、人に言葉で伝えることの面白
さや魅力を感じたことからアナウ
ンサー道につながりました。

私はアナウンサーになるために
二つの大使をやっていた訳ではあ
りませんでした。たまたまやって
いた二つの大使の経験がアナウン
サーという道を開いてくれました
た。私はこれから皆さんが人生の
岐路にたつた時に、皆さんを後押
ししてくれるものは経験だと思っ
ます。私は大使をしたことによっ
てアナウンサーとして即戦力とし
て使えますよってPRもしました
し、ピアノはアナウンサーには全
く必要のない技術ですけど、十七
年続けたということを強味にして
PRしました。ポランテアも
やってミュージカルもやってバイ
トもやって演奏会もやって色々
やったことがアピールへとつな
がった、アナウンサーになりたい
がためにやった訳ではなかったん
ですけど、広く浅くやった経験た
ちがちょうど私の進路を後押しし
てくれたんですね。皆さんに伝え
たいなと思うのはやはり、とにか
くチャレンジしてほしいなという
ことです。自分の意志じゃなくて
も、周りがやっているから仕方な
くやったにしても、とりあえず

やったっていう経験は自分にとつ
て大きな力になります。それが成
功しても失敗しても一つの経験で
すからね。その全てを私は「経験
貯金」と言っています。とにかく
何かやってみないとゼロなんです
よね。何か少しでも手を伸ばして、
足を出して取り組んでもらえたら
なということ伝えたいです。私
たちのテレビの仕事っていうのは
本当に社会にもすごい大きな影
響を与えています。視聴率をみて、
愛媛県人口百四十万人くらいの皆
さんのうちの何万人に見てもらっ
て影響を与えているんだと思っ
てもものすごくプレッシャーで怖く
なることもありますし、責任も伴
いますし、それだけしんどい思い
もあります。でも、何のために仕
事をしていて、何のために生きて
いるのかというのが毎日明確にな
りますよね。テレビの仕事とい
うのは本当にやりがいもあるし、
チャレンジすることは忘れないよ
うにしています。

今日皆さんが私の話を聞いてい
ただいて、こんな仕事があるんだ
な、アナウンサーってこういう感
じなんだな、テレビちよつと見よ
うかな、河野アナウンサーこんな
人なんだな、なんでもいいですけ
ど、今日の私の話が皆さんにとつ
て一つの「経験貯金」になっ

たら嬉しいなと思ってお話をさせ
ていただきました。ぜひ大学時代
を謳歌してください。私もいつば
い後悔があったんですけど、とに
かくなにか手をつけてみるという
のが私が大事な事かと思つたこと
です。ままとつた？でしょうか。今
日は本当にありがとうございます
た。

学生からの質問①

休みはどのくらいあつてどの
くらい働いていますか。

A. ブラックとか言いますもん
ね、テレビ局。一応カレンダー
通りの休みはもらっています。
土日祝はお休み。ただ土曜日に
出勤、記者とアナウンサーを兼
任しないといけない時やイベン
トがあると土日に出勤します。
その分は代休をとる仕組みには
なっています。とれないときも
ありますが。皆さんが想像して
いるよりもホワイトなイメージ
かなと思います。

学生からの質問②

NHKは見ますか。

A. 正直にいうと、あんまり見て
いません。ごめんなさい。ち
らつと番組表を見たりしてま
す。

学生からの質問③

「よるマチノ」の企画で一度

お店に来ていただいたとき、と
ても素敵な方だと思いました。
アナウンサーとして一番必要な
スキルって何ですか。

A. お会いした方がいらつしやる
んですね、ありがとうございます。
一番必要なスキルはコミュ
ニケーションかな。言葉しゃべ
れなくても伝えようっていう姿
勢で「頑張っているね」って言
われることがあるので。私も三
年目のペーパーで上手く話せな
い時が沢山あるんですが、一生

懸命やっていますね。
学生からの質問④
フリーに転向しようと思いま
すか。

A. 仕事くれますか、皆さん(笑)
正直今は考えていません。今
はいテレビでしっかりやらせ
てもらおうと思っています。イ
ベントなどで皆さんとお会いし
た際には声をかけていただけ
らと思います。あいテレビで頑
張ります。



「第9回愛媛大学ホームカミングデイ」を開催しました

【平成30年11月10日(土)】

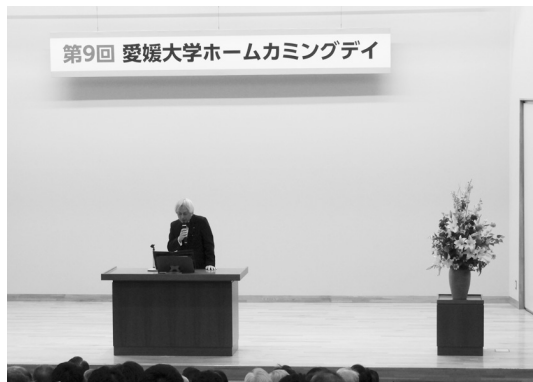
学部最近のニュース

ホームカミングデイは、卒業生の皆様や教職員OBの方々にお越しいただき、大学の施設見学や同日に行われる学生祭に参加いただくなどして、母校へのご理解を深めていただくことを目的に平成22年度から実施し、今回が9回目の開催となりました。

当日は紅葉しはじめたメイプルプロムナードの木々が迎える中、多くの卒業生や教職員OB、本学学生及び教職員あわせて約280人の皆様にご参加いただきました。会場である南加記念ホールでの式典は今回も超満員となり、補助席を設けるほどの盛況ぶりでした。

式典後は、愛媛大学ミュージアム及び農学部樽味キャンパスにある植物工場の施設見学等の同時開催イベントを実施し、多くの方にご参加いただきました。

第1部の式典では、大橋裕一学長の挨拶の後、仁科弘重社会連携推進機構長が本学における社会連携の取組を紹介しました。



大橋愛媛大学長



満員の南加記念ホール

その後の特別講演では、愛媛大学紙産業イノベーションセンター長の内村教授及び、大王製紙(株)生産本部新素材研究開発室大川課長が、紙産業イノベーションセンターの活動報告や同センターへの期待についてご講演されました。



愛媛大学紙産業イノベーションセンター長の内村教授



大王製紙(株)生産本部新素材研究開発室 大川課長

第2部では、チアリーディング部によるマリオゲームのBGMに合わせたアクロバティックなパフォーマンスの後、大橋学長が所属する合唱団「ダンディーズ」と教育学部附属小学校・附属中学校コーラス部による「昴」「風」等のスペシャルコンサートがあり、最後は参加者全員で学歌を斉唱し、式典を終えました。



チアリーディング部の演技



ダンディーズと附属小・中コーラス部の合唱

式典後には恒例の懇親会が大学会館で行われ、高橋校友会会長による挨拶の後、仁科社会連携推進機構長の乾杯により開会しました。懇親会では学生合唱団による合唱をはじめ、愛大オリジナルグッズが当たるジャンケン大会、応援団と吹奏楽団による応援歌の披露を行い、大いに盛り上がりました。それぞれのオリジナルグッズごとに争奪のジャンケンが行われましたが、最後の1個以外はすべて教育学部関係者が景品をゲットするなど、その勝負強さを披露しました。



懇親会の様子



オリジナルグッズ争奪ジャンケン



コーラス部の合唱



応援団によるエール

今回の懇親会にも、県内外から多くの卒業生、本学関係者が参加し、改めて親睦を深めることができました。会員の皆様、来年の第10回ホームカミングデーには、ぜひご参加いただき、楽しい1日をお過ごしください。

教育学部附属小・中学校の連携学校見学会を開きました

【9月20日(木)】

平成30年9月20日(木)、教育学部附属小・中学校の連携学校見学会を開きました。

この見学会では、附属小学校の6年生が附属中学校の教室や体育館で、実際に授業や部活動の体験を行っています。

数学の授業を受けた児童は「難しい問題も工夫して考えると解決できたので面白かった」と楽しそうに感想を述べていました。部活動体験でも、活気溢れる中学生の姿に驚きながらも、楽しみながら吹奏楽やバスケットボールなどの練習に参加しました。一方、中学生が小学生たちに優しく丁寧に接する姿は、大変頼もしく感じられました。

児童生徒にとってこの見学会は、附属学校における貴重な経験になりました。

附属学校園では、今後もさらに学校園相互の連携を深めていきます。



数学の授業体験の様子



吹奏楽部体験の様子



英語の授業体験の様子

教育学部留学生歓迎会を開催しました

【10月29日(月)】

平成30年10月29日(月)、教育学部本館2階会議室で、教育学部留学生歓迎会（後学期）を開催しました。教育学部では、今年度9月から新たに3人の留学生を迎え、現在7人の留学生が在籍しています。歓迎会には、留学生、教育学部長、指導教員、国際交流委員会委員、留学生チューター、事務職員などが一同に集いました。

国際交流委員会委員長の張貴民教授の司会のもと、佐野栄教育学部長の歓迎挨拶があり、乾杯でパーティが始まりました。その後、留学生が紹介され、それぞれ日本語で自己紹介を行いました。歓談を通して交流が行われ、和やかな雰囲気の中で閉会となりました。留学生の皆さんにとって、本学で過ごす留学生活が有意義なものになるよう願っています。



佐野栄教育学部長の挨拶



歓談の様子

教育学部附属学校園で松山市と総合防災訓練を実施しました

【10月28日(日)】

平成30年10月28日(日)、附属小学校のグラウンドで松山市の総合防災訓練を実施し、附属学校園の児童生徒及び教職員1,200人と消防や民間企業・近隣住民等約300人、総勢1,500人が避難所の開設や救助などの訓練に参加しました。

訓練は、午前9時30分に四国沖を震源に南海トラフ地震が起こり、震度7を観測した想定で行いました。附属学校園内に大地震の発生を知らせる訓練放送が流れると、教員に誘導された児童生徒らが一斉にグラウンドに避難をし、開始から約6分後には4校園全ての児童生徒らが避難を完了し、全員の安全を確認して、訓練を終えることができました。

その後、附属幼稚園児を附属中学生が誘導し、附属小学校建物2階実習講義室に避難する二次対応訓練を実施しました。今年は大勢の人が集まり見守る中で、普段と違う状況に戸惑っていた園児でしたが、日頃から交流している中学生の誘導に安心し、落ち着いて避難することができました。

引き続き、松山市が実施する総合訓練に参加し、段ボールの組み立て・救命救護訓練・バケツリレー・瓦礫下に閉じ込められた住民の救出・水消火器を使用した消火体験を行い、ヘリコプターによる吊上救助訓練を見学しました。

児童生徒らが持田地区にいるときに災害が発生した場合、まず児童生徒らの安全確保を最優先し、無事保護者に引き渡すまで附属学校園が責任をもって行動する必要があります。

今回の訓練で学んだことを活かし、日頃から附属学校園間の連携を強化し対策を進めていきます。



小学校グラウンドに避難した園児・児童



中学生の救命救護訓練

教育学部も防災訓練を実施しました

【12月13日(木)】

平成30年12月13日(木)に愛媛大学教育学部においても地震発生後に火災が起こったとの想定で避難訓練を行いました。授業中の学生さんたちも、地震発生放送とともに机の下に身をかがめて自身の身を守り、その後の火災発生放送に慌てず落ち着いて避難することができていました。いつ起こるか分からない災害ですが、こうした日々の訓練を通して身を守る方法を身に付けることが大切だと感じました。



避難後に話を聞く学生たち

職場だより



ピカピカの教員一年生



新居浜市
大生院小教諭
藤澤 昂佑
(平二九卒)

「サッカー選手になりたい」私の最初の夢は子どもらしき全開でした。日韓ワールドカップの中田英寿選手を見てそう思い、サッカーを始めました。初めは信じて練習をしていましたが、全国大会を経験し、その夢が途方もないものだと気が付き、別の夢を探しました。それから私は大きな夢もなく、中学生を過ごしました。教員について考え始めたのは、高校二年生の時でした。今までの先生を振り返るといい先生が多く、助けられていたと感じました。なんとなく進路を教育学部を決めていたとき、父に「やめておいたほうがいい。」と反対されました。確かに反対する気持ちはわからなくはないです。当時から大きな問題として教員の過労については取りざ

たされていきました。しかし、大学での実習後も、気持ちは変わることもなく、採用試験に合格することができました。

そして春から、現在の勤務校で働くことになりました。出身が松山市の私は卒業旅行中に母からの電話で、東予地方の勤務とわかりました。不安でしかたなかったです。やりがいと意欲が四割、不安が六割といったところでした。教員生活が始まると驚きの連続で、痩せてしまいました。教員の仕事の多さと、実習とはまるで違う現実を目の当たりにして、悩みというより、何をしているのかわからなくなりました。初めて学級担任となり、毎日の授業と研修の日々をこなすのに必死でした。まずは、叱り方がわかりません。お遊戯会のように騒いでいても、どう言えればいいのかわかりません。感情を露に怒るのは違うなということだけはわかっていましたが、結局怒るだけになってしまいました。そして、クラスをまとめるという漠然とした課題がありますが、手立てを思いつきません。初めての勤

務で、見通しも立ちません。自分の力不足もありますが、実習とはまるで違います。最後に、児童の実態がつかめません。児童は一人一人違います。どんな子なのか、どう思っているのかを把握するのに時間がかかりました。そんな困難が続いた一学期は運動会もあり、正直忙し過ぎました。

二学期に入ると、それまでとは打って変わって落ち着いて過ごせている自分がいます。それは、ほかの先生方に指導していただいたり、アドバイスをもらったり、手伝ってもらっていることはもちろん、少し見通しを持つて取り組むことができるようになったからだと思います。まわりが少しずつ見え始め、児童と過ごす時間が増えました。また、陸上記録会練習やその他の活動で異学年の児童と話す機会も増え、楽しく学校生活を送れています。しかし、児童たちはなぜかそわそわしています。祭りが近いからです。新居浜市は太鼓祭りが有名で、三トシ近い太鼓を担ぎ、豊作祈願をします。松山出身の私は、喧嘩神輿には少し抵抗があり、参加できませんでしたが、先生方に誘われ、太鼓祭りに参加させてもらいました。そこでは、地域の特性や地域の伝統を感じる

ことができませんでした。地域の人たちが一丸となってお祭りを盛り上げ、私たち担ぎ手が困らないように準備をしてくださり、一つ一つに思いやりを感じました。これが新居浜の伝統なのだとわかりました。また、驚いたのは児童の祭りに対する意識です。児童も一丸となって祭りを楽しみます。保護者の方も学校のために「お祭り集会」のときに、太鼓台を持つてきてくださったり、その太鼓台を児童に触らせてくださったりしました。地域の伝統を受け継ぎ、地元を愛するための活動を見ることができ、感動しました。宣伝はいいですが、ぜひ見に来てほしいと思います。

半年間教員生活を送ってきて、自分はどこを目指すべきなのか、まだ明確なものはありません。何が自分の強みなのか、いろんな先生方から勉強している最中です。きつとこれからも目指すべきものが定まるのは時間がかかると思います。いろんな強みや魅力をもった先生がいて、いろんなアドバイスをくださる先生がいます。生涯学習と言われているように、人生は学びの連続です。私は、迷いながらも、目の前の課題を一つずつクリアしてステップアップしていくことが大切だと思います。その中で、児童の心を

動かせる魅力をつけていくこと、ケースバイケースで対応するための引き出しを増やす姿勢だけは意識して頑張っていきたいと思っています。

「サッカー選手になりたい」私の最初の夢は子どもらしき全開でした。日韓ワールドカップの中田英寿選手を見てそう思い、サッカーを始めました。初めは信じて練習をしていましたが、全国大会を経験し、その夢が途方もないものだと気が付き、別の夢を探しました。それから私は大きな夢もなく、中学生を過ごしました。教員について考え始めたのは、高校二年生の時でした。今までの先生を振り返るといい先生が多く、助けられていたと感じました。なんとなく進路を教育学部を決めていたとき、父に「やめておいたほうがいい。」と反対されました。確かに反対する気持ちはわからなくはないです。当時から大きな問題として教員の過労については取りざ

たされていきました。しかし、大学での実習後も、気持ちは変わることもなく、採用試験に合格することができました。

そして春から、現在の勤務校で働くことになりました。出身が松山市の私は卒業旅行中に母からの電話で、東予地方の勤務とわかりました。不安でしかたなかったです。やりがいと意欲が四割、不安が六割といったところでした。教員生活が始まると驚きの連続で、痩せてしまいました。教員の仕事の多さと、実習とはまるで違う現実を目の当たりにして、悩みというより、何をしているのかわからなくなりました。初めて学級担任となり、毎日の授業と研修の日々をこなすのに必死でした。まずは、叱り方がわかりません。お遊戯会のように騒いでいても、どう言えればいいのかわかりません。感情を露に怒るのは違うなということだけはわかっていましたが、結局怒るだけになってしまいました。そして、クラスをまとめるという漠然とした課題がありますが、手立てを思いつきません。初めての勤

務で、見通しも立ちません。自分の力不足もありますが、実習とはまるで違います。最後に、児童の実態がつかめません。児童は一人一人違います。どんな子なのか、どう思っているのかを把握するのに時間がかかりました。そんな困難が続いた一学期は運動会もあり、正直忙し過ぎました。

二学期に入ると、それまでとは打って変わって落ち着いて過ごせている自分がいます。それは、ほかの先生方に指導していただいたり、アドバイスをもらったり、手伝ってもらっていることはもちろん、少し見通しを持つて取り組むことができるようになったからだと思います。まわりが少しずつ見え始め、児童と過ごす時間が増えました。また、陸上記録会練習やその他の活動で異学年の児童と話す機会も増え、楽しく学校生活を送れています。しかし、児童たちはなぜかそわそわしています。祭りが近いからです。新居浜市は太鼓祭りが有名で、三トシ近い太鼓を担ぎ、豊作祈願をします。松山出身の私は、喧嘩神輿には少し抵抗があり、参加できませんでしたが、先生方に誘われ、太鼓祭りに参加させてもらいました。そこでは、地域の特性や地域の伝統を感じる



792-0032 新居浜市政枝町
三丁目二一三〇

人を大切に



今治市
波方小教諭
黒田栄太郎
(平三〇卒)

教員人生一年目もあつという間に半年が過ぎました。原稿依頼をいただき、何を書こうかと考えていると、大学時代の思い出、四月の始業式から今日までの教員生活など、たくさんのが頭に浮かんできました。同時に、右も左も分からない状態のまま、日々の教員生活をこなすことではいっばいの心に「何がきっかけで小学校の教員になったのだろう。」と素朴な疑問が生まれ、まずは教員を志した理由を振り返ってみようと思えました。

これまで野球のことしか考えていなかったため、進学して学びたいことを見つけてあげられずに悩みました。そんな時、野球部の恩師に「そんなに野球が好きなら、何かしらの形で携われる仕事を指してはどうか。」と言っていた

さらさらした目で声を掛けてくれる純粋な優しさや、ものすごいスピードで成長する子どもたちと触れ合っていると、最初の気持ちはどこへやら、少しでも長くこの子どもたちといっしょにいたいという気持ちが強くなりました。実習の最終日には、「必ず先生になるからね。」と約束して泣いてしまったことを、今でも覚えています。

そんな大学生活を送っていた私に人生の転機となる出会いがありました。それは教育実習先の先生と、そのクラスの一年生との出会いでした。教育実習の初日に、初めてクラスに入ったときの衝撃は忘れることができません。まだ一年生というところで、実習生慣れもしていない子どもたちはすぐに、「先生、先生、いっしょに遊んで。」と集まってきました。まだまだ言葉もあまり通じないため、宇宙人のように感じて、大変なクラスに

出てしまったと気持ちが重くなりました。しかし、すごく素直で、子どもたちと出会い、やる気を出して頑張ろうと思っても、授業を行った経験がなく苦しみました。そんな時、いつも親身になって分からないことを夜遅くまで教えてくださったり、前向きな言葉を掛けてくださったりしたのが、実習先の先生でした。「気にしないでいいからね。私も同じようなときがあったし、たくさん教えてもらったから。順番だよ。」と明るく掛けてくださった言葉は今でも心の支えになっています。教育実習以降、「こんなに可能性に満ち溢れている子どもたちを身近で見守りたい。」「成長に携わりたい。」「こんなふうになんか大切にできる先生になりたい。」という思いが芽生え、「絶対に教員採用試験に合格する。」という決意に



つながりました。晴れて教員として採用され、初任者として今治市立波方小学校に勤めることになりました。初めての職員会議は何を言っているのか全く分からない、自分の役割も理解できない状態で、「これからやっていけるのだろうか。」と不安で押し潰されそうになりました。そんな状態で一学期が始まると、できていないことが分からない、同学年の先生に迷惑をかけていることに気付けない(この点は今でも山ほどあると思います……)失敗だらけの毎日でした。後々に自分の無力さを痛感し、後悔と情けなさで涙がこぼれたこともありました。そんな自分が今まで教員を続けられているのは、

嫌な顔一つせず、こと細かく教えてくださり、気遣ってくださる先輩の先生方と、明るく元気な子どもたちのおかげです。まだまだ失敗だらけで落ち込むこともありませんが、「できないなら謙虚に学び続けよう。そして、いつか必ず恩返しをしよう。」という思いを胸に抱き続けて、教員生活を送っています。

ここまで振り返ってみても、たくさんの人との出会い、支えがあつて今の自分があることを実感しています。「人を大切に。」現任校の校長先生に教えていただいた私が大切にしている言葉です。それは自分を大切にすること、そして自分を支えてくれる人を大切にすることです。そのため、常に感謝の気持ちを忘れずに、自分にできることは何かを考えて実行していきたいです。最後に、これからも人との出会いを大切に学び続けていきたいと思えます。いつか恩返しができるように。

799-2109 今治市波方町養老
甲八〇三番地(一)

目指す教師像



松山市

久米中教諭

瀬川 奈穂

(平三〇卒)

私が教員を目指すようになったのは、中学生の頃でした。ちょうど今、私とともに生活している子どもたちと同じ年頃です。

当時私は、学校生活のこと、部活動のこと、友人関係のことなど、様々な悩みを抱えていました。そんな時に、何も言わなくても私の様子に気づき、悩みを聞いてくださった先生がいました。一人でどうすることもできないでいた私に手を差し伸べてくださったことは、とても大きな支えになりました。私もこの先生のように、子どもたちの悩みに気づき、一緒に解決することのできる存在でありたいと思い、教員を目指すようになりました。

私は愛媛に生まれ、ずっと愛媛で育ってきたので、愛媛で教員になりたいという思いをもっていました。そのため、大学四年間を愛媛で過ごし、愛媛の教育について

学ぶことに決めました。大学ではそれまで知らなかった教育に関するあらゆることを学びました。それと同時に、教員という仕事の大変さも感じ、自分に務まるのだろうかかと不安になったこともありました。それでも、教育実習ではすてきな子どもたちに出会い、教員になりたいという気持ちがますます大きくなりました。採用試験に合格した時には、本当にうれしく、これからの教員人生に対する期待に胸を膨らませたことを覚えています。

教員としての生活がスタートして早くも半年が経ちました。中学二年生の学級担任として、慌ただしくも充実した日々を送っています。その日々の中で、自分があの先生のように、子どもたちにとって心の支えになれているのかと悩むこともあります。上手くいかないことも多く、自分の未熟さを感じる時もあります。それでも子どもたちが笑顔で、「先生、聞いてください」と声をかけてくれることが本当にうれしく、頑張ろうという気持ちにさせてくれます。子どもたちとの年齢が近い今だからこそ、話せることや理解できることも多くあると思います。その強みを大切に、一人一人と向き合

いたいのです。何をすることも、子どもたちのためにという気持ちで、これからも日々奮闘していきま

す。また、担当している英語の授業でも、試行錯誤の毎日です。子どもたちには楽しく学習に取り組んでほしいという思いがあるので、多様で楽しい学習活動の設定に悩んでいます。目の前にいる子どもの様子を見て、柔軟に授業を展開していけるよう、まだまだ勉強しなければならぬと感じています。思えば、愛媛大学で過ごした四年間で、英語の指導法についても多くのことを学びました。その学びを反映させて、生徒の学習に対するモチベーションを高めた

り、学習の定着を図ったりしていきたいと思えます。ただ英語を教える立場というだけではなく、私自身も英語を学び続ける存在として、生徒とともに学習に励みたい

です。部活動では、私自身も経験してきた吹奏楽部に携わっています。子どもたちが演奏している姿を見たり、一緒に演奏したりしていると、自分の学生時代のことを思い出します。私は部活動を通して、何かに一生懸命に取り組むことの大切さ、感謝の気持ちをもつこと、仲間とともに何かを創り上げるこ

との難しさやすばらしさなど、本当に多くのことを学びました。子どもたちにもたくさんを経験し、学び、成長してほしいと思

います。教員として、その手助けをしっかりとしていきたいです。そして、子どもたちが部活動を引退するとき、大人になって部活動のことを思い出すときに、「つらいこともあったけど、頑張つてやつてよかった」と思うことができるよう、支えていきたいです。教員として過ごしたこの半年間は、本当にたくさんの方がありがとうございました。昨年度末は自分に教員が務まるのかどうか不安ばかりでしたが、今は不安よりも「やつてやる」という気持ちのほうが大きいです。毎日の生活や学校行事などを通して、子どもたちの気持ちは日々変化し、成長しています。私もそれに負けてはられません。不安に思ったり、悩んだりするだけではなく、行動を起こすことを大切にしたいと思えます。幸いにも、私の周りには力を貸してくださる同僚の先生方がたくさんいます。悩みを打ち明け合うことのできる初任者の仲間もいます。私を応援し、励まし、アドバイスをしてくださるすべての方に感謝し、

子どもたちと向き合い、ともに歩んでいきたいです。

子どもたちの夢をかなえられたいというのは、とても幸せなことなのだと思います。大人になるにつれて夢をあきらめる人も多い中、私は中学生のころから思い描いてきた夢をかなえることができそうです。その幸せを噛みしめながら、これからの様々なことを経験し、魅力ある教員になれるよう、努力します。私の教員生活はまだまだ始まったばかりです。これからどんなことが待ち受けているのか、楽しみでもあります。一人一人の子どものたちを大切に、これからの長い教員人生を楽しみたい

伊予郡松前町鶴吉
791-3155
九七六一二



一年生の子どもと私



伊予市
郡中小教諭
宇津 博美
(平二九卒)

「入学おめでとう。」

教師になって二度目の四月。入学式の日、私は、きらきら輝くまなざしの新入生一人一人と挨拶を交わした。その後、在校生の待つ体育館へと向かった。新入生と手をつなぎ、ドキドキしながら花のアーチをくぐった。きつと新入生に負けないくらい緊張していた。教室に戻り、小学校では勉強をすること、休み時間にみんなで遊ぶこと、給食を食べること、たくさんの行事があることなどを伝えた。

「また明日、この教室で会いましょう。」

あの日から、もう一年が経とうとしている。あつという間の日々だったが、思い返せばいろんなことがあった。

入学式の次の日。

「おはようございます。」

と大きな声で教室に入ってきた男

の子。私のところに近づいてくるなり、

「先生の名前、覚えたよ。最初の文字が『う』なんだよね。次の文字は……忘れた。」

と言った。私の名前は、二文字である。

「それじゃあ、覚えたとは言わないねえ。」

とみんなで大笑いしたのが懐かしい。ピカピカの一年生の初めてだらけの小学校生活が始まった。

初めてのトイレ。最近、和式トイレをあまり使わない子が多い。黒板にトイレの絵を描き、説明し、さらにはトイレで補足もした。まさか、トイレの使い方を指導することになるなど思ってもいなかった。

初めての給食。待つてましたと言わんばかりの勢いで食べる子。野菜が嫌いで固まっている子。少食で少ししか食べない子。きよろきよろして食べる時間が足りなくなる子。その子どもたちの対応に追われ、給食を食べる時間を失った。給食指導の大変さを思い知った。

初めての参観日。朝から張り切っていた子どもたちも、授業が始まると、誰も私なんて見ていない。一生懸命保護者を探し、手を

振っている。そんな子どもたちに必死に呼びかける私。全く授業にならなかった。これは、さすがに驚いた。

初めての通信簿。一学期の頑張りを伝えながら、一人一人心を込めて手渡した。子どもたちは早く早く私を急かし、受け取る。ところが、受け取った子どもたちは、その場で固まった。そして、ある女の子の第一声。

「先生、漢字だらけで何が書いてあるのか分かりません。」

そうきたか、とがっかりする私。その後、通信簿の説明に一時間を費やしたのは言うまでもない。

初めての運動会。私は一年生のダンスの担当となった。

「みーぎ。左。みーぎ。左。」

私の掛け声に合わせて、必死に練習する子どもたち。しかし、左右が定着していないため、動く方向はバラバラ。隊形移動は場所を覚えることができず、何度も練習を繰り返す日々。その日にできても、翌日には忘れていることも多かった。そして、運動会が終わる頃には、子どもたちから

「先生、瘦せたねえ。」

なんて声も聞こえるようになった。

私がかぜを引いた時。今年は、



授業の様子

私にしては珍しくかぜを引いた。のどが腫れてしまい、声も徐々になくなっていく。

「おはようございます。」

みるみるうちに、朝の挨拶の声が老婆のようになっていく私に、

「先生、大丈夫？」

と毎日聞きにくる子どもたち。子どもたちの心配もむなしく、声が全く出なくなった。笛とチャイムで指示を出し続けた。すると、どうしたのか。普段より、しっかりと指示を聞く子どもたち。さらには、

「先生が何か言ってるよ。静かにしないと、聞こえないよ。」

と言う子どもまで出てきた。大きな声で指示を出す必要はないのだと改めて思い知らされた一日となった。

何から何まで初めての一年生。そんな子どもたちに手を焼く教師二年目の私。嫌になることもたくさんあった。

でも、入学式から一か月ほど経った家庭訪問の日、ある保護者の方にこんな言葉をいただいた。「子どもたちが『起立』の号令で立って、気を付けをして、大きな声で挨拶をする姿を見て感動しましたよ。一か月でこんなにも成長するんですね。」

私は、涙が出るほど、嬉しかった。何をするのも子どもたちと一緒にバタバタする毎日。本当に大変だが、子どもたちが少しずつ、ほんの少しずつ成長している姿が見えると、それで疲れや悩みも吹っ飛んでいく。

小学一年生の子どもたち。初めて一年生の学級担任をする私。どちらも、初めてのことが多い。しかし、子どもたちの成長に置いていかれてはいけない。一緒に成長することができているか。そんな思いで今日の授業がまた始まる。

伊予市上吾川一〇〇
799-3112

二十三年目にして 二度目の新採気分



伊方町
三崎中教諭
加藤 知己
(平八卒)

「初めての赴任地はどこになるのだろう。」と、期待と不安と緊張で胸が張り裂けそうになっていた頃からもう二十二年。月並みだが、あつという間だった気もするし、長かった気もする。

そして二十三年目の今年、二度目の『初めて』がやってきた。二十二年間ずっと小学校で勤務してきたが、この四月から、初めての中学校勤務となったのだ。三月十九日にこの内示を知らされたとき、あまりの衝撃に頭を抱えて座り込んでしまった。今までも、これからも、ずっと小学校でやっていくものだと思っていたからだ。しかも、私の持っている免許は「国語」のため、国語科教師としての異動だが、実は高校時代は理数系で、国語専門としての自信はそれほどなかったのだ。「私に中学校教員が務まるのだろうか。」と不安ばかりの春休み。唯一の救

いは、それまで四年間勤務していた小学校と、同じ敷地にある中学校への異動だったということだ。子どもも保護者も知っているという事実は、私を安堵させてくれた。小学校四年生、六年生の二年間受け持っていた子たちが、中学二年生としてその中学校に在籍していたことはとてもうれしく、小学校時代を知っている子どもたちの成長を、再び身近で見ることのできる幸せをありがたくも感じた。初めての中学校勤務を不安がっている私に、「大丈夫。やれる。」と優しく励ましてくれたり、中学生との接し方を教えてくれたりと、何人もの先生方が声をかけてくれた。また、町内には三校の中学校があるが、それぞれの中学校の国語科の先生が、何時間も時間を割いて、ノウハウを詳しく教えてくださった。その教えのおかげで、何とか国語科教師としての勤務をスタートする心構えができたのである。

いざ始めてみると、小学校との違いになかなか馴染めず、思うように仕事ができない自分がいた。「私はこんなにも仕事ができなかったのか。」と度々打ちのめされた。職場が変われば、置いてある物も、場所も違う。簡単な事務仕事や教室の準備等にも必要以上に時間がかかり、副担任として担任の先生の役に立ちたいと思ってもなかなかできずに、気ばかり焦る毎日。担任の先生の、「かまよ。自分のこととしてや。」の優しい言葉に何度救われたことか。始業式が終わり、いよいよ国語科教師としての授業が始まった。中学一年生は、教材が工藤直子さんの「のはらうた」の詩だったため、小学校と同じ感覚で授業をすることができた。二年生、三年生も、詩からの始まりだが、「表現技法」などの基礎的な内容を指導しなければいけない。小学校でも教えるが、中学校は「受験」という大きな壁があるため、用語も確実に押さえておく必要がある。表現技法や文法のような基礎的な事項を押さえながら、いかに読み取る力や感性を育てていくか。しかも小学校よりも一週間あたりの時数が少なく、時間的に余裕がないのである。生徒が理解できるように、なおかつテンポよく授業を進めていかなければいけない。小学校とは違って空き時間があるため、その時間を利用して教材研究や授業計画を立てることができ

る。しかし、三学年分を行うには、空き時間だけでは全然足りない。放課後や休日の午前中は、部活動があり時間が作れない。授業の中間だけでなく、仕事をする時間のやり繰りにも頭を悩ませる日々が続いた。また、定期テストの問題作りにもかなり悩まされた。テスト作りが大変なことは想像していたが、いざやってみると、想像以上に苦しんだ。「五十分間で解くのに適切な量とは。」「適切な難易度はどのくらいか。」「この問題だと生徒がどのくらい解けるのか。」「各領域を満遍なく、適切な配分になっているか。」等々、考えなければいけないことを挙げていけばきりが無い。何とか形になったとき、大きな仕事を一つやり終えた充実感を感じることができた。ただ、初めて作ったテストは、どの学年も少し平均点が高かった。「このくらいの問題なら、きつと平均点は〇点くらいだろう。」という予測が、今の私にはまだできない。他教科の先生方は、ある程度予測しながら作成されていて、毎年、毎学期、こうやって苦しい仕事を難なく（私にはそう見えるだけかもしれないが）こなしている先生たちがとてもまぶしく見えた。二学期、三学期、来年度、と、何度

もテスト作成の時期が訪れる。教材が変わり、取り上げる部分が変わり、生徒が変わり、「同じ」になることは一度もないが、何とか予測できるだけの技量や経験値を高められたら、と思っている。

二十三年目といえはかなりの「ベテラン」に入るのだろうか、「ベテラン」に入ると変わらぬ私の気持ちは「新採」と変わらぬ。日々勉強。日々研修。そして仕事がついに思いついた。出すのは、十数年前先輩教員からいただいた、『しんどいときこそ成長のとき』という言葉。これからも成長できることを信じて、前を向いて努力していきたい。

☎ 796-0801 西宇和郡伊方町三崎
五七六



簡単な自己紹介



宇和島市
番城小教諭
兵頭 亨介
(平二五卒)

「教育の現場をもっと知りた
い。」大学院で現職の先生方といっ
しよに学んでいるうちに、この思
いがますます強くなりました。大
学院を中退し、京都や愛媛の学校
で約五年間、講師として勤務させ
ていただきました。昨年度は、西
予市立野村小学校で学級担任をさ
せていただきました。年度当初か
ら担任を持つことは初めての経験
で、先生方や児童にもたくさん
の迷惑をかけてしまいました。その
ような中でも、先生方には力強く
支えていただき、励まされ、つい
に教員採用試験に合格することが
できました。合格通知を見るとき
に手が震えたことや、自分のこと
のように喜んでくださった先生方
のことを鮮明に覚えています。思
い返せば、児童との日々が自信に
つながったと感じています。
教員採用試験に合格した私は、
これまで以上のやる気に満ちてい

ました。三月には、県外のセミナー
に参加し、様々な実践を知ること
ができました。また、教育書やビ
ジネス書など、積極的に読書をする
ようになりました。そして、今
年度も四年生の学級担任をさせて
いただくことになりました。学級
開きでは、「命」「時間」「心に勝
つこと」「この三つを大切にしてい
ることを話しました。「心に勝
つ」とは、ちよつとくらいいいか
な、という気持ちに勝つことです。
これは自分への戒めでもありま
す。成長する人というのは、日々
の生活の中で、ほんのちよつとの
頑張りを続けられる人だと信じて
いるからです。児童もこのことを
大切にしてくれて、「今日も頑張っ
たよ。」と笑顔で報告してくる姿
がとてかわいいです。ときど
き、厳しく指導することもありま
すが、指導で困ったときには、経
験豊富な先生方からアドバイスを
いただきます。特に、「目の前の
行為ではなく、児童の背景まで考
えて指導しなさい。」という言葉
が心に深く残りました。

それから私は、「何のために」
ということをよく考えるようにな
りました。何のために指導するの
か、何のための勉強なのか、何の
ための学校なのか。その全ての中
心に、児童の存在があることに気
が付きました。そして、児童のた
めの私とは、どうあるべきかを考
えるようになりました。すると、
自分がどんな先生になりたいか
が、少しずつですが、見えてくる
ようになったと思います。
学級全員が分かる授業を実践で
きるようになりたいです。そのた
めに、短く分かりやすい指示や簡
潔にまとめられた板書など、でき
ていないことばかりですが、日々
の授業を大切にしながら、研修を
積みたいのです。
これから私が取り組みたいこと
が二つあります。一つ目は、視覚
支援の充実です。前を見れば、今
何をすべきかが分かる。どこに注
目して考えればよいか分かる。
当たり前のことですが、思った以
上にできていないことが多いで
す。二つ目は、学び合いです。授
業では、つい私が話しすぎてしま
い、児童は聞いているだけになっ
てしまうこともしばしばありま
す。書いたり話したりする機会を
増やし、活発なコミュニケーション
の中で、学びを深められるよう
にしたいです。初任者研修や校内
研修も、自分の授業を反省し、多
くのことを学ぶ機会になっていま
す。学んだことの全てを生かして
いくことは難しいですが、実践で
できることから少しずつ取り組み

いと考えています。
児童に対しても、誠実で謙虚で
あり続けること。これが、いつま
でも大切にした心構えです。児
童がいるから先生でいられる。聞
いてくれるから話がでける。従っ
てくれるから指示ができるのだ
と、感じています。互いの信頼関
係が本当に大切だということを、
実感しています。児童に感謝の言
葉を忘れないようにしたいです。
そして、児童が生き生きと学び、
楽しく生活できる学級経営を目指
して、指導力を高めていきたいで
す。
今後の課題は、仕事と家庭を両
立することです。これまで述べた
ように、教員として学ぶことや、
児童のために努力すべきことには
限りがありません。研究授業の前
には、夜遅くまで職員室で仕事を
して、指導の先生にまで迷惑をか
けてしまうこともありました。準
備が不十分で、授業がままならな
いこともあります。そんなとき
でも、「忙しいのはよく分かって
いますから、無理せず頑張りなさ
い。」と、励ましていただきまし
た。そして、「仕事以外の趣味を
見付けて、教員とは別の関係をつ
くることも大切です。それが、人
としての魅力になりますよ。教育
は人なりですよ。」と、教えてい

いただきました。これからは、剣道
やピアノなどの趣味の時間も取れ
るようにしていきたいです。そし
て、私を支えてくれる家庭の時間
を大切に、子育ても楽しみたい
と思っています。仕事も家庭も
大切にしながら、生き生きと働
き続けられる教員として、頑張っ
ていきたいです。
(☎) 798-0085 宇和島市宮下 甲二〇二

祝・叙勲
(平成三十年十一月三日)
秋の叙勲
☆瑞宝双光章
教育功勞 一色 光 様
教育功勞 楠橋 恒雄 様
教育功勞 長井 強 様

◆支部活動報告1 (附属支部)

「日本の伝統文化に触れてみよう」

愛媛大学教育学部同窓会附属支部長 森本 久美

支
部
活
動
報
告

「箏線にふれる」という言葉があるように、箏や三絃、尺八などの和楽器の音色には、私たちの心を揺さぶる不思議な魅力があります。今回、和楽器の演奏鑑賞のみに留まらず、実際演奏する体験を通して、日本の伝統文化に触れ、支部会員の心身の健康維持に努めることをねらいとした活動を企画しました。

また、附属支部会員は附属幼・小・中・特別支援学校4校園で構成されています。小・中学校音楽科では、箏等の演奏鑑賞や演奏体験の学習が行われています。会員の教職員としての資質向上にもつながると考え、支部会員に呼びかけました。

11月3日、愛媛大学教育学部同窓会の協力を得て、附属特別支援学校の学校祭の場で活動することになり、児童生徒・保護者そして地域の人たちにも広く呼びかけました。当日は、附属支部会員を含めて170名あまりが参加し、箏・三絃の生田流当道音楽会より3名、尺八の都山流より2名の講師をお呼びして本格的な和楽器の音色を楽しむことができました。



和楽器演奏のプロの音色を楽しむ参加者

第1部の全体会場では、40分ほど講師の先生方の演奏を通して、それぞれの和楽器の音色と合奏のすばらしさを堪能させていただきました。

演奏していただいた曲は、箏の独奏に尺八を合わせた「宮城道雄作：春の海」、箏の合奏と三絃、尺八による「八橋検校作：六段の調」の古典曲2曲と箏の独奏で「沢井忠夫作：鳥のように」、箏の合奏と十七絃、尺八による東日本大震災復興応援ソング「花は咲く」の現代曲2曲、計4曲でした。特に、最後の「花は咲く」は演奏に合わせて、参加者も手話を交えて一緒に歌い、心温まる時間を過ごしました。

第2部では、約2時間実際に参加者が演奏を体験する演奏体験ワークショップを開きました。講師の方から爪のつけ方、座り方、弾き方等について教授いただき、「さくら」の曲を1曲マスターする参加者も多数いて、最終的には尺八を交えた参加者による合奏ができるまでになりました。

会員参加者からは、「和楽器の音色に優雅な気分になり、リフレッシュすることができた。演奏が素晴らしかった。」「初めて箏を弾いたが、短時間で1曲弾けるようになり、嬉しかった。」といった感想も聞かれ、充実した支部活動になりました。



ワークショップに参加する会員



支部活動の様子

◆支部活動報告2（北宇和支部）

「防災に関する講演会の実施」

愛媛大学教育学部同窓会北宇和支部長 布 博文

現在、鬼北町立愛治小学校に勤務しています。本校では、10月21日に今年度で36回目を数える愛治地区PTA研究集会が行われました。



愛治PTA研究集会

この会に愛媛大学同窓会北宇和支部講演会を重ねて実施しました。私が大学時代にお世話になった愛媛大学名誉教授・愛媛大学教育学部同窓会長の高橋治郎先生を講師としてお招きし、「南海トラフ巨大地震に備えて」と題してご講演いただきました。本校小学生・教職員・保護者・地域住民の方々・町教育関係者・愛媛大学教育学部卒業生の方々等約120名の参加を得て実施できました。

高橋先生は、小学生にも分かり易いように地震のメカニズムや南海トラフ地震にどのように備えていくかを話していただき、1時間半でしたが皆さん先生の話を中心して聞いていただきました。



児童たちにも分かるように話す高橋先生



講師の話を聞く会員及び地域の皆さん

この講演会を通して地域ぐるみでの防災体制の大切さ、いつ起こるか分からない地震に対する備えの意識が高まりました。

高橋先生、事務局の皆様ありがとうございました。



◆支部活動報告3 (南宇和支部)

「退職してもなお」

愛媛大学教育学部同窓会南宇和支部元支部長 若田 正

私が、南宇和支部の支部長を引き継いで始めた「落語会爆笑僧都寄席」が、退任後三代変わった今も続いており、先日7回目を終えた。

「伝統ある日本文化」の「生の落語」に触れさせ、子どもたちの「生きる力」につなげたい、また、お年寄りにも「生の落語」に触れていただき、笑って健康に過ごしていただきたいと考え始めたものである。



熱演する菊志ん師匠

準備や運営については、7回目ということで慣れてはきたが、できるだけ安い入場料での開催を考えているため、同窓会からの援助以外の資金調達に苦慮した。現職時代は、教育公務員弘済会から援助していただいていたが、会からの援助をしていただけなくなり、町からの援助を教えていただいた。生涯学習課の「わが里づくり事業」の補助金を利用することを学習した。昨年度は、初めてだったのでいろいろ指導を受けながら申請書を作成したが、今年度は、昨年度のものをもとに割と簡単に作成することができた。

そして、会場は、僧都地区の「僧都ふれあい交流館」と、昨年度から申し出があった近くの緑地区の「緑基幹集落センター」の2か所での開催となった。この地区は、「まるごと緑」という組織を立ち上げ、様々なイベントを通して地域の活性化を図っている地区である。嬉しいことに、会場提供だけでなく準備や片付けを手伝ってくれた。おまけに、懇親会までも用意してくれ、今はやりの「ジビエ料理」を提供してくれたのである。もちろん、愛南町の「海の幸」もバッチリである。

迎えた当日、7回目になる「古今亭菊志ん」師匠の「天狗さばき」と「かわりめ」、そして、「花色木綿」と「禁酒番屋」、3回目になる「桂三幸」氏の「ももたろう」と「ラスト一球」と「牛ほめ」という落語を拝聴した。出陣子をかけ、時に座布団を返すことをしながら、来場者の表情を興味深く写真に収めた。もちろん、自らも大いに楽しんだのは言うまでもない。休憩時には、江戸落語と上方落語について簡単に解説させていただいた。「桂三幸」氏の落語「ラスト一球」では、スマホを使用し、来場者と本物のグラブとボールを使ってキャッチボールをするという、来場者の心を引き付ける新しい形の落語に触れることができ、感動した。



桂三幸とキャッチボールをする観客



満足な表情の観客

なんといっても盛り上がったのが、7周年を記念して行った大抽選会である。師匠たちに、手拭いと落語の入ったCDを賞品として用意していただき、2人に抽選していただいた。引いた番号と入場時に渡した番号と照らし合わせ、一致した方に私が景品を配り、落語会がとても充実したものとなった。

入場者数が安定してきたことや予約席が埋まり始めたこと、そして、全員が大笑いすることに、やりがいを感じる場所である。できることなら、現職の先生方が気分転換や息抜きに来場してくれることと、他地域の子どもたちが来場してくれることを望んでいる。今後、様々な課題も出てくるだろうが、一つ一つ解決し、10回目20回目と回を重ねていきたい。



あしあと

過去から現在そして未来へ

同窓会事務局

教育学部は昭和五十一年に前身の愛媛師範学校創設から百周年を迎え、当時の堀越和衛学部長を中心に記念行事や記念誌を発行してきました。あれから半世紀近くの時

そこで、今回からシリーズとして百周年記念誌に載せられた先輩諸氏の寄稿を紹介し、これからの同窓会について共に考えていきたいと思います。

* * *

が過ぎ、教育学部も大きく変わってきました。私たち同窓会会員はそうした時代の流れをしっかりと見つめ、これからの同窓会活動を考える必要があります。そのため

(教育学部同窓会百周年記念誌より抜粋)

高橋 良弘氏 寄稿

教育学部の草創期

(一) 生誕前の城北教場

夏草や兵どもが夢の跡

芭蕉の句をほうふつさせる戦後の旧練兵場跡は、ペンペン草とク

ローバーの生い繁る原野であった。昭和二四年の春、この城北原

頭にたちまちにして数棟の木造建

築が現出した。松山博覧会の会場である。焼土と化した松山市が、

全国の都市に先がけて、建設の鎚音も高く復興し、文化の香りを見せた土地である。

昭和二四年五月三十一日、国立学校設置法により、愛媛師範学校、愛媛青年師範学校を母胎にして、新制国立大学「愛媛大学教育学部」が、この松山博の会場跡を利用して発足することになる。教育学部発足に至るまでには、地方行政・教育界・民間の強力な援助や努力があったことはいまでもない。有志の方々で作った愛媛大学

設立期成同盟会のメンバーが、募金活動の一環として、当時の松山市庁ホールを借りて映写会を催したり、売薬で資金を集めたり、また、学生演劇部は地方公演に出かけるといった、涙ぐましい努力のあったことを忘れてはなるまい。

この城北の練兵場跡へ最初に足を踏み入れたのは、三津の女子師範跡で勉強していた愛媛師範本科二年生であった。本科一年生と予科生はそのまま三津教場に残っていた。

昭和二四年六月一五・一六の両日、新制大学として初めての大学入試が行われた。新制高校を初めて卒業した者、師範学校一年を修了した者などが応募したわけだが、愛師・青師の生徒は希望者だけが受験した。教育学部は四年課程中等教育学科と初等教育学科、二年課程中等教育学科と初等教育学科にわかれていた。試験はさることながら、身体検査で、かつての徴兵検査ばりの肛門や性病検査には驚いた。さすが国立大学となると少し違うぞと感を新たにす

昭和二四年七月二八日、持田教場(文理学部……現在の附属中学校)の焼け残った章光堂で、第一回の晴れの入学式を行う。教育・文理・工学部の三学部の入学生は、初代藤本萬治学長の訓示を聞く。この日、入学式に出席した父兄の数はほんの数人だったように記憶している。学生はほとんど詰り姿で、中には軍服姿もまじっていただろうか。さわめて質素な入学式であった。

(二) 草創期の持田教場

教育学部の四年課程の学生は、そのまま文理学部(旧松山高等学校)の持田教場で、一般教養を受ける。この持田教場には、まだ旧制の松山高等学校の三年生が居残っていた。昔懐かしい弊衣破帽、高下駄をカラコロさせた松高生ともすぐに仲良しになった。章光堂のそばのイチヨウ並み木やテニスコート横のケヤキ林では、文理・工学・教育の三学部の学生に、松高生を交えた異色のグルー



ます。

りませんが、「教育」を考え、取り組む思いは変わらないと考え

ます。

昭和二四年六月一五・一六の両



草創期の一般教養時代、文理・教育・工学部の仲よしグループ(昭25)



旧制松高生、最後の盛装(昭24)

プが散見されたものである。写真は旧制松高生最後の姿であり、愛大初期の三学部から集まった仲良しグループのナップである。昭和二四年・五年ころの松高生のファッションにも注目してもらいたい。

初めて聞いたドイツ語の発音を奇異に感じたり、一〇〇分授業の長さにうんざりした中で、新鮮だったのは中学科に紅一点の城戸さんを迎えたことであった。男性一色の中にあつて可憐なその容姿はひととき目立っていた。翌年、同じ中学科に森さんが、これまた一人で入学してくる。(写真説明省略)

体育と言えば、相原体操で有名なかの先生のわれ鐘のような「ファイト」のかけ声、もう二度と聞くことができなくなつたのは、さびしい限りである。

一般教養時代の補導教官は、専門教科を離れてどの学部の教官を選んでもよい。三学部から補導生が相集い、それぞれの教官のもとで質素ではあるが、よくコンパをやつたものである。時には松高生名残のあのケヤキ林でのストーム

が夜のしじまを破ることもあつた。

(三) 昭和二五・六年ころの城北
教場

昭和二五年十月、持田教場で一般教養を終えた二年生は、城北教場で専門課程にはいつた。専攻別に補導教官も決まつた。木造の校舎ではあつたが、それぞれの研究室を割りあてられて陣取つた。教室も確保されていたが、教職教養以外は、専攻生の人数があまりにも少ないため、教官室で講義を受けたり、ゼミナルをやることがあつた。家庭科では教官一人に学生一人といった風景が見られた。階段教室に詰め込んで、マイクでやる講義とは異なり、講義の途中で一服したり、先生自らがお茶をいれてくれたりの研究室であつたため、もちろん代返ができるはずもなく、温かく、しかもきびしい師弟の関係を結ぶことができた。一度受講しただしたら、最後までやり抜かねばならない気持ちになり、気がついてみたら、一八単位の専門課程(中一普免・高二普免)であればいいところを卒業時には五〇単位をオーバーしていた学生

も多かつた。お粗末な施設であつたが、現代の教育で最も渴望されているものが、ふんだんに味わえた時代でもあつた。

当時の城北教場には教育学部の二年課程の中学科・初等科の学生と、旧制の師範学校・青年師範学校の三年生、ならびに三部とも呼ばれていた愛媛師範学校研究科の学生が、混然同居していた。しかも、二五年の十一月には城北教場の南側へ、附属小学校が竣工し、二六年の二月には勝山中学校の校舎跡(現在の理学部)へ附属中学校の生徒が三津教場から移転してきた。四年課程の学生とは共に受講することがなかつたのであるが、部活動や各種のサークル活動ではすぐに溶け込み、一体となつた活動を展開していつた。

学生の自治会である愛真会(文理学部)愛友会(教育学部)愛工会(工学部)の組織もすでに整っており、愛友会の同じ仲間として協力し合つた。昭和二五年度後期の城北教場は、同じ教職の道を志す者たちの集まりではあつたが、多数の女子学生を交えた多彩な時代であつた。

昭和二六年三月一三日、昭和二五年度(第一回)教育学部二年課程修了式、ならびに一年課程修了式を行う。この日をもつて一年課程(研究科)は姿を消すことになる。また、この日、城北教場で学んでいた、師範学校・青年師範学校の卒業式が行われ、長い歴史の幕を閉じることになる。

したがつて、教育学部だけの城北教場となつたのは、昭和二六年度からと言えよう。専門教養に入つていた学生の一部、たとえば英語科の学生や、法律を受講した学生などは持田教場と城北教場をかけもちしていた。わずかの時間をさいて、急ぎ足で往來するたため、一般教養時代の休講を利用して、道後の新温泉に身を沈めるといつたのんびりとした時間がもてなくなつた。しかし、昼食時や放課後は研究室に集まつてはだべり、腹が減つたといつてはアミダくじを作つて、竹内の労研まんじゅうを買いに走つたものである。

この時代にもっとも印象に残るレクリエーションは、北側校舎の側にあつたコンクリートのテニス

コートで戯れたことである。旧陸軍の格納庫跡のコンクリートへ荒縄を張つてネットとし、チョークでラインを引いて即席のコートを作つた。理科系・文化系を問わず素人の愛好者たちが集まつてきては、だれとでもペアを作つて試合をした。群馬大学におられる細原先生などはその常連でもあつた。

二六年四月、愛媛大学期成同盟会寄贈による、愛媛大学教育課程文庫が竣工した。二階の東側が閲覧室となり、教育学部の学生にとつて、はじめて図書館らしきものに親しむことができた。日頃はよく遊んでいても、この閲覧室だけは、真剣な空気の漂う場にしようかと相談し、遅くまで居残つて勉強した学生もいた。木造二階のモルタル建築のこの図書館が、この時代の学問の殿堂であり、木の香壁の匂いにも胸はずませていた学生たちの姿があつた。

昭和二七年四月二一日、第一回教育学部ろう教育課程の入学式が挙行された。

第十六回 懇親会報告

同窓会事務局

阿部 修一
(昭五二卒)

【平成最後の懇親会】

平成三十年八月二十五日(土)二年一度の同窓会懇親会を全日空ホテルダイヤモンドボールルームにおいて開催いたしました。昭和の終わりに始まった懇親会ですが、十六回目の今回は平成最後となる懇親会になりました。

式次第

- (一) 開会のことば
- (二) 黙祷
- (三) 会長挨拶
- (四) 祝辞
- 教育学部長
- (五) 来賓紹介
- (六) 乾杯
- (七) 賛助出演
- 邦楽部
- (八) 会員出し物
- (九) 抽選会
- (十) 学歌斉唱
- (十一) 閉会のことば



佐野学部長挨拶



高橋会長挨拶



来賓の皆さん

事務局の不手際で開会が遅れるというハプニングがありました。が、理事の皆様のご協力を得て何とか十分の遅れで会を開くことができました。参加者総数は目標数に届かず一三七名でした。来賓として、教育学部長佐野栄先生、恩師として兵頭寛先生、井門義男先生、宮内正義先生、出口考彦先生、三浦和尚先生、奥定一孝先生にご参加いただきました。先生方お忙しい中、ありがとうございます。参加された会員の皆さんも久しぶりに先生方にお会いして楽しいひとときを過ごしました。

【現役学生の賛助出演】

今回も愛媛大学邦楽部の学生の皆さんが懇親会を盛り上げてくれました。邦楽部の皆さんにはいつもこの懇親会ですばらしい演奏をいただいています。会員の中



コカリナの演奏 (平松夕佳氏)

には「今回も邦楽部の演奏はあるの？」と楽しみにしている方も多く見られました。ただ、今回は進行・準備の都合上、乾杯後に舞台横で演奏してもらったこともあって演奏している姿が見れなく残念！というご意見もありました。

【懇親会の様子】

宴会は、伊予漫才の衣装をまとった満田泰三氏(昭二五青師卒)のご発声で始まりました。満田氏にはこの後の余興で伊予漫才を披露していただきました。また、プロ歌手として活躍されている矢野聖寿氏(昭四八卒)にはご自身が作詞・作曲された歌などの披露、さらに会報一二六号でも紹介した木で作った楽器「コカリナ」の音色を平松夕佳氏(昭五九卒)に披露していただきました。

会場内はいたる所で「おぉ〜！元気がったか？」「久しぶり！」と肩をたたき合う姿や酒を酌み交わす姿が見られ、会員それぞれに楽しい時間を過ごしていました。



再会を楽しむ会員の皆さん

【恒例の抽選会】

懇親会の中で実施している抽選会は大変好評で参加者が楽しみにしている出し物でもあります。今回も愛大ショップ「えみか」で販売している大学のロゴが入った商品や附属特別支援学校の生徒の作った製品を記念品として用意しました。最多出席は昭和三五年卒の皆さん、最高齢参加者は、勝田昇氏(昭二四卒) 最も若手の参加者は新家雅司氏(平二八卒) でした。また、最も遠くから参加されたのは京都からの生野芳子氏(昭三〇卒) でした。生野氏には附属

農場でとれたブランド品として人気のある「大学みかん」を十二月にお送りしました。

【再会を約束して】



エールを送る矢野理事

懇親会の最後には愛媛大学学歌を全員で歌うのが恒例となりましたが、今回はその学歌斉唱の前に同窓会役員で元応援団の矢野裕司理事(昭五六卒)によるエールが同窓会に送られました。張りのあるエールを聞くうちにふと遠い昔を思い出し、「あ〜！このエールでどれだけ勇気付けられたか」と思いを新たにしたのは私だけではないと思います。学歌斉唱を終えた後は、全員で次回の再会を約束して懇親会を終えました。

次回の懇親会は、東京オリピックが開催される二〇二〇年八月二十二日の予定です。新しい年号での開催となりますが、会員の皆さまのご参加をお待ちしています。



懇親会アラカルト記念切手集

今回の懇親会の様子を切手風にしてみました。



邦楽部の皆さん



司会者デビュー



そうかな！ そうかな！



いや～！ 楽しいのお～！



会長お願いが！



まあ～まあ一杯！



伊予漫才の熱演



熱唱する矢野氏



コカリナのデュエットって言うの？



記念品贈呈 1



記念品贈呈 2



エールを送る矢野理事



文 芸

俳 句



森 孝枝
(昭三八卒)

囀を聞く一本の樹となりて

子規の庭敷へて増やす露の臺

少年の描く未来図木々芽吹く

春光を梳くごと密に櫛の枝

耳立てて水の私語聞く水芭蕉

書を曝す祖父に宛たる子規の文

被爆手帳持てる師に書く夏見舞

無口なる子に育ちをり雲の峰



流星を待つ一本の樹となりて

虫籠の闇の平らに子の寝落つ

爽やかや風に奥行ある故郷

子規忌けふ欠席あらぬ出席簿

若き日のセーター解きて糸となる

背伸して隅なく板書す漱石忌

同郷の子規に見せたまき今朝の雪

(東京都在住)



絵 手 紙

ありがとう、

至福の時

井上 弘子
(昭四五卒)

大学時代は、勉強とテニスに明け暮れていた。貧しかったが支えてくれる親や友人に感謝していた。よい成績を取って愛媛の小学校の先生になるという夢を持っていた。充実した毎日だった。四年間のテニス部活動は、今では一生の宝となっている。真っ黒く日焼けするのへっちゃら、寧ろ、勲章であったのだ。初めてのスポーツ部だ。

あれから五十年、絵手紙の世界で遊ぶ自分がある。仲間と共に眼に映った物と向き合い描いている。下手でいい。下手がいい。大先生の言葉を胸に取り組んでいる。この世の中、うまい人は大勢いる。でも、私は私の絵手紙でいいのだ。無心で見詰めていると、眼前の物が心の中に入り込み、「いいぞ。その調子。」という声が聞こえてくる。やったあ、黙々と筆を運び、色を置く。絵手紙を届けた人を思い浮かべて言葉を選んで書く。とてもいい気持ち、この時間は、至福の時なのだ。

指導してくださる先生の言われるように出来ない私だが、これからも、楽しく絵手紙を続けていきたいと思っている。
八十歳になった時、温かい心を

伝えられる絵手紙が描けているだろうか。

〒790-0806 松山市緑町二丁目 六一二九



裏表紙にも掲載しています。



王舎城の悲劇

—「教行信証」の序より—



吉原 宏文
(昭四二卒)

王舎城 (Rājagṛha) は、古代インドで強大であったマガダ国の首都の名である。釈尊在世當時は、マガダ国最大の都として文化的経済的に栄えていた。その国王頻婆娑羅 (Bimbisara) は、城内で托鉢し修行している出家直後の釈尊の姿を見て感動し、仏教信者となつて釈尊とその教団を外護した。そして成道後の釈尊を王舎城に迎えて篤く保護した。しかし、彼は息子の阿闍世 (Ajātasattu) 王子に幽閉され殺された。実は、父王頻婆娑羅王と皇后韋提希夫人 (Vaidēhi) には子どもがなかった。思案にくれていると、ある占師が「あの山に住む仙人が三年後

には頻婆娑羅王の太子として生まれかわるべく定まっている」と予言した。国王夫妻は大変喜び、早く太子が欲しいとばかり、その宿因時期を待たずして家来に命じて仙人を殺害させた。その後まもなく男児が誕生した。しかしながら、両親はこの子がかもし因縁を知つて我々を憎み復讐するのではないかと恐れ、槍を突きさした一階の庭に、二階から赤子を落して殺そうとした。が、運よく槍と槍の間に落ち、小指一本を切断したのみで命拾ひをした。そして、この子が成長して阿闍世王子となった。ところが、この因縁の一部始終を、釈尊の高徳を如みごとく敵対

する提婆達多 (Devadatta) が、兩行大臣を証人としてひそかに太子に密告した。そこで、太子は父である頻婆娑羅王を七重の室に監禁した。母韋提希夫人は身体に蜂蜜を塗ってひそかに王の命をつなごうとしたが、阿闍世王子の知るころとなり、激怒 (瞋怒) した彼は、我が母も謀反人であると、剣をぬいて無道にも母をも殺そうとした。その時、側近の耆婆、月光の兩大臣がねんごろに誠めて、「大王、臣聞く、劫初よりこのかたもろもの悪王ありて、国位を貪るがゆゑにその父を殺害せること一萬八千なり。いまだかつて無道に母を害することあるを聞かず。王いまこの殺逆の事をなさば、これ施陀羅 (candala) なり」(candala は、激しい、獐猛な、残酷なという意味) と、闍王の逆心を諫めた。「あなたの家来をやめます」と必死の説得の結果、闍王は剣を投げ捨てて、母の韋提希夫人を牢獄に禁じた。こうして牢獄に閉じこめられた韋提希夫人は、何故このような不幸なめに会つのかと嘆いていたところ、神通力で

釈尊が夫人の前に立たれた。釈尊は因縁の恐さを説示され、心の底から阿弥陀仏にすがれば、災いのない真実の安樂国土 (極樂浄土) に生まれかわることができると説かれた。力があり、修行によつて救われる自力聖道門の教えではなく、力弱く苦悩の多い、凡愚底下の罪人 (群萌) が救われる唯一の道は他力浄土門であり、今こそここに、浄土の教えを説く機縁が熟したと釈尊は認識されたのである。一人残らず救済するという大誓願を方便をもつて引入されるのである。

「ひそかにおもひれば、^①難思の弘誓は^②難度海を度する大船、^③無碍の光明は無明の闇を破する恵日なり」(鈴木大拙英訳文)
As I humbly reflect, Amida's Prayer for universal deliverance is beyond my understanding. It is the great boat that crosses the ocean of impassability. Amida's Light knows no hindrance. It is the sun of transcendental wisdom (prajña) which illumines the darkness of ignorance (avidyā). 「しかればすなはち^④浄邦縁熟して、^⑤調達(提婆達多)、^⑥闍世(阿闍世)をして逆害を興せしむ。^⑦浄業機乾れて、^⑧釈迦、^⑨韋提をして安養を選ばしめたまへり」
This being so, when the conditions were maturing for the Pure Land, Devadatta succeeded in persuading King Ajātasattu to commit a deadly crime. Thereupon, Śakyamuni came out into the world to make the mind of Vaidēhi turn toward the Land of Peace and Happiness. This showed that here was a being ready to accept the teaching of the Pure Land.
「われすなはち^⑩権化の仁(人)、^⑪齊しく苦悩の群萌を救済し、^⑫世雄の悲、^⑬きやくく^⑭逆^⑮誘^⑯闍提を恵まんと欲す」
Thus we see that these incarnated ones' benevolent spirit is to save all beings from misery and suffering and that the compassionate heart of the

Bravest of the World extends even to criminals of the highest degree, blasphemers of the Right Dharma, indeed, to those who are utterly devoid of any stock of merit.

「ゆゑに知んぬ、円融至徳の嘉号は悪を転じて徳を成す正智、難信金剛の信樂は疑を除き証を獲しむる真理なり」

Therefore, be it known that the Auspicious Name embodying the supreme virtue which knows no obstructions is the right transcendental knowledge which transforms evil into merit, and that the faith which is beyond conceivability and as genuine as a vajra (diamond) is the truth which makes us attain the realization by wiping out every trace of doubt we may have cherished.

(注)

①難思の弘誓(思はかる)の
できない広大な誓願)、②難度海
(渡る)が難しい迷いの海)、
③浄邦縁熟して(積尊が浄土の教

えを説き明かす機縁が熟して)

④浄業機彰れて(浄土往生の行業を修するにふさわしい機類が現れて)、⑤世雄(仏の尊称の一。仏

は煩惱を断じ、魔を征服する世の雄者であるから)、⑥逆(五逆、

(一)殺父、(二)殺母、(三)殺阿羅漢、(四)出仏身血、(五)破和合僧)、⑦謗(誹謗正法、仏の正法をそしめること)、

⑧闍提(一闍提<icchantika>、世

俗的な快樂を追求するのみで、正法を信ぜず、悟りを求める心がなく、成仏することできない衆生のこと)⑨円融至徳の嘉号(万物一如という完全にして最高の徳を具えた名という意。阿弥陀仏の名号、南無阿弥陀仏の)⑩権

化(神仏が世人の要望に応じて、その苦しみを救うために、さまざまに姿を変えて、一時的にこの世に現れること)

二〇一八(平成三十年)

八月十一日(土) 山の日



731-0135

広島市安佐南区長束
二丁目一八一五(一五)

◆お詫ごと訂正

会報二二六号「会員の声」欄の吉原宏文氏寄稿の「親鸞と英語」二十二ページ上段九行目に脱稿がありました。左記内容を加えていただきますようお願いいたします。

事務局の不手際で吉原氏及び会員の皆様にご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。

「ゆゑに知んぬ、円融至徳の嘉号は【悪を転じて徳を成す】正智、【難信】金剛の【信樂】は疑いを除き証を獲しむる真理なり」と

Therefore, be it known that the Auspicious Name embodying the supreme virtue which knows no obstructions is the right transcendental knowledge [which transforms evil into merit, and that the faith which is beyond conceivability] and as genuine as a vajra (diamond) is the truth which makes us attain the realization by wiping out every trace of doubt we may have cherished.

訂正：【 】の文章が抜けておりました。

放送大学入学生募集のお知らせ

放送大学では、平成三十一年四月入学生(教養学部、修士選科生・科目生)を募集中です。

〈募集期間〉
平成三十年十二月一日、
平成三十一年三月十七日

放送大学は、テレビなどの放送を利用して自宅で学べる通信制の大学です。

放送大学では、心理学・福祉・文学など、幅広い分野を学べますが、同窓会員特に現職の方々は、次に掲げる教育関係の免許資格取得などができます。

○放送大学の大学院を利用して、**専修免許状**の取得が可能です。

○放送大学の科目を利用して、**特別支援学校教諭免許状**の取得が可能です。

○放送大学の科目を利用して、**司書教諭資格**の取得が可能です。

○放送大学の講習を受講して、**教員免許更新**が可能です。

資料を無料で差し上げております。お気軽に、**愛媛学習センター**にご請求下さい。



放送大学
教養はエネルギーだ。
一科目からでも学べます

平成31年度4月入学生募集中!
(平成31年3月17日まで)

問合せ先 愛媛学習センター
TEL 089-923-8544

●インターネットで資料請求・出願できます。 ●資料請求専用フリーダイヤル
放送大学 www.ouj.ac.jp ☎ 0120-864-600

愛媛大学ミュージアムから

愛媛大学ミュージアムは2019年に開館10周年を迎えます。ミュージアムでは本学が蓄積してきた研究成果を一般の方々に伝えることを目的に展示活動を行っています。常設展示は、「進化する宇宙と地球」、「愛媛の歴史と文化」、「生命の多様性」、「人間の営み」の四ゾーン十コーナーから構成され、企画展示スペース・多目的ルーム

では多彩な企画展を随時開催しています。最新の展示として、2019年1月23日(水)～4月1日(月)の間、第二常設展示室にて、愛媛大学法文学部が提供するさまざまな海外派遣プログラムを紹介する常設特別展示『グローバル社会を体感する法文学部海外派遣プログラム—未来に向かって、羽ばたけ若者!』を開催します。この展示では、法文学部が目標に掲げる人文社会諸科学の知識を基盤とした幅広い教養と実践的能力を有し、いろいろな状況へ柔軟に対応できるグローバル人材の育成、その達成のための重要な手段の一つとして取り組んでおります。本プログラムの2017、2018年度に実施された成果を展覧することで、海外体験の意義と魅力を地域の皆さまや高校生、本学学生に伝えます。お近くへお越しの際には、是非ミュージアムにお立ち寄り頂ければ幸いです。

(愛媛大学ミュージアム)

2018年度

グローバル社会を体感する法文学部海外派遣プログラム

未来に向かって、羽ばたけ若者!



ウガンダで聞き取り調査をしました。

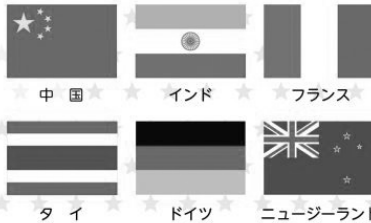


アメリカの大学でプレゼンをしました。

法文学部では、多彩な海外派遣プログラムを用意し、参加した学生たちがさまざまな力を伸ばしています。ぜひ、その様子をご覧ください。



韓国で若者同士の対話をしました。



このほか世界各地で、語学研修や実践活動を展開しています。

会期：2019年1月23日(水)～4月1日(月)

会場：愛媛大学ミュージアム 第2常設展示室

主催：愛媛大学法文学部

問い合わせ：愛媛大学法文学部ミュージアム展示ワーキンググループ
(代表：榎林建司 narabayashi.takeshi.mk@ehime-u.ac.jp)



表紙作品について

○作品タイトル

「椿」(二〇一七)



作者

安井 明美
(昭四八卒)

赤・青・黄の三原色と白だけで色を作った水彩画です。毎年春になると、ノコギリとハサミを携え、友人の運転する軽トラに便乗し、彼女の知人の所有する桜の園へワクワク出掛けます。そこは、見渡す限り何種類もの桜、椿もいっぱい。「どれでも取ってええぞ!」ということで、軽トラの荷台にいつぱいの桜と椿。なんと幸運なんでしょう。モデルの椿は、中でも一番愛らしく心を惹かれました。この知人の亡くなられた奥様が桜を愛された方で、奥様の亡き後ずっとここを守ってらっしゃるとのこと。奥様の遺言で、ここに散骨なさっていると聞きました。そんなところの椿だもの、花びらのひとひらひとひら葉っぱの一枚一枚心を込めて描きました。けれど、椿の花はすごいスピードで散っていき、グズの私の前にはついに数枚の葉っぱと枝だけのモデルが……。

「三原色の会」を主催して三十年程になります。高みにはなく、生活のすぐそばにある芸術を提唱し活動してきました。

791-1105 松山市北井門

五丁目二一三〇

部活動紹介

邦楽部の活動

私たち愛媛大学邦楽部は、箏・尺八・三味線といった和楽器による演奏を行っています。部員は箏が九人、尺八が六人、三味線が六人の計二十一人で活動しています。今年もOBや関係者の方々のご協力、ご支援により活動させていただき、大変感謝しております。さて、この度は平成二十九年、三十年度の主な活動について報告させていただきます。

【平成二十九年愛媛大学学生祭】
平成二十九年の十一月十日、十一日に愛媛大学で学生祭が開催されました。邦楽部では毎年、演奏会と体験会を行っています。二日間でおよそ百人もの方々に来ていただきました。普段の演奏会と違い、学生祭ということで、気軽に楽しんでいただけるように心がけました。体験会では、学生だけでなく、地域の方々やお子さんも

多く、和楽器に親んでもらえたと思います。



【第二十六回愛媛大学邦楽部定期演奏会】

愛媛大学邦楽部は毎年、十二月の第一土曜日に松山市民会館の小ホールで定期演奏会を開催しております。私たち愛媛大学邦楽部はこの定期演奏会を一年間の目標として練習して参りました。曲数は八曲で、OBの方々や、講師の先生にも演奏していただきました。

多くの方々に支えていただき無事定期演奏会をやり遂げることが出来ました。次回の定期演奏会に向け、さらに練習を重ねて参ります。



【平成三十年留学生演奏会】

五月十六日に国際連携課からいただいた依頼で、留学生に向けた演奏会、体験会を行いました。海外の方に日本の文化を紹介することを目的に、多くの留学生の方々に来ていただきました。体験会の際は、日本語が通じない方も多くいらつしゃったので、拙い英語とボデイランゲージで精一杯お相手させていただきました。短い間でしたが、楽しんでいただけたのならばうれしく思います。海外の

方を相手に演奏会、体験会を行うことで改めて、私たちは日本の文化に触れているということを感じることができた一日となりました。



【庚申庵秋風コンサート】

十月十三日に庚申庵倶楽部様からの依頼で、松山市の重要文化財「庚申庵」で演奏会を行いました。庚申庵で演奏させていただくのは今年で二回目です。また去年は、別のイベントと合同での演奏でしたが、今年は秋風コンサートという事で、邦楽部が単独で演奏会を開催させていただきました。重要文化財での演奏会は貴重な体験で気が引き締まる思いでした。またこの演奏会には、お客様との距離が近く、演奏会終了後には声をか

けてくださったりと大変励みになりました。今年もおかげ様でありがたくも多くの依頼をいただいで、演奏会をさせていただきました。また、学生祭、定期演奏会と皆様に披露する場もございますので、より一層、精進して参ります。



会報の送料納付について

会報の個人宛発送は、送料を各自で負担していただくことになっております。出費多端の折柄恐縮ですが、未納の方は、左記要領で納付方お願い申し上げます。

記

①一年間五〇〇円で、二年間分ずつ収めるようになっていきます。

②二年ごとの更新は、煩さなので、何年間かを、まとめられる方もあります。

納付期限 毎年三月三十日までとし、二年毎に更新する。

送金方法 郵便為替・現金書留・郵便振替で

振替口座番号

送り先 〇一六四〇一七一一二七五四
松山市文京町三

愛媛大学教育学部同窓会

領収書は、振替用紙をもって、かえさせていただきます。

会報送料・寄付者名

平成30年

6月・12月

住織菊森田平門篠福松寺梁宮島中西岡岸中藤羽稲馬芝小楠篠住小倉平池山手菅菊住杉岡毛
田田池 中尾屋崎本本嶋瀬田村路田原本島田野垣越 林本崎本池瀬田川内島家地川本田利
淑治君久充哲英泰利幸義典美裕一佳 キ元 英喜裕 嘉光△斐政敏之繁 博昌光洋律
功子子枝雄子也文輔夫子夫行子子至隆子正子將清子美一隆一子美典子幸夫光惇明満恵子子

藤須善宮山三上宮宮白駿向合武高佐菊田一多安小八足木岸山志小坂松示野川小原佐西石作日橋竹青青続白
原之内家崎平好田川田石河井田田橋々々池窪良啓色和倍島塚利本田本賀河本浦野敏郎端林 木谷村道野本葉井井木石
勝勝瑛英満克常淳信淳昌正婦桂綾千雅一多美 満佐康奈美シ祐 智啓邦文郁エ明千長信弘俊昌更和 正規宏淑
壽彦徳子子己光郎貞子子夫美二子子子 恵彦子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

敬弔

(物故会員)

30・8・5 (昭18・愛師) 河野 正夫
30・7・30 (昭29・愛大) 小野植元 幸
30・7・22 (昭30・愛大) 真部 明雄
30・7・21 (昭28・愛大) 矢野 勝利
30・7・21 (昭23・愛師) 今岡 博之
30・7・16 (昭18・女師) 園部 光子
30・7・13 (昭25・青師) 池田 熊夫
30・7・11 (昭35・愛大) 野本 和伯
30・7・6 (昭23・愛師女) 藤原 貞子
30・6・16 (昭12・女師) 坂井ミヤ子
30・6・8 (昭16・女師) 田中スミエ
30・5・25 (昭25・小臨) 森下 涼子
30・5・20 (昭18・女師) 真鍋キクエ
30・4・22 (昭23・愛師) 廣瀬 善久
30・1・10 (昭26・青師) 藤原 幸子
29・3・2 (昭21・愛師女) 中尾 正子
(死亡年月日) (氏名)

30・8・7 (昭56・愛大) 吉田 和平
30・8・7 (昭24・青師) 大西 秋廣
30・8・7 (昭36・愛大) 中矢 清
30・8・13 (昭10・県師) 崎本 定静
30・8・21 (昭60・愛大) 向井 甚吾
30・8・22 (昭34・愛大) 稲垣 清
30・8・28 (昭26・青師) 西 忠信
30・8・30 (昭23・愛師) 峯本 政幸
30・9・8 (昭23・愛師) 赤坂 哲夫
30・9・11 (昭32・愛大) 向井 春雄
30・9・12 (昭46・愛大) 横手 洋子
30・9・16 (昭36・愛大) 村上 憲男
30・9・17 (昭11・女師) 篠塚 タツ
30・9・21 (昭24・青師) 北田久仁輝
30・9・24 (昭22・愛師) 久保田仁郎
30・10・7 (昭25・青師) 西原 吉二
(死亡年月日) (氏名)

30・10・8 (昭29・愛大) 日野 菊江
30・10・10 (昭29・愛大) 藤本 友良
30・10・12 (昭34・愛大) 小島 武
30・10・13 (昭25・愛師) 井上 清
30・10・22 (昭16・県師) 奥田 和久
30・10・24 (昭24・研究) 奥津 重徳
30・10・27 (昭25・愛師) 真木 英二
30・10・29 (昭29・愛大) 大塚 年男
30・11・8 (昭31・愛大) 森 皓三
30・11・9 (昭22・青師) 得能 順蔵
30・11・15 (昭26・愛師) 吉本喜代成
30・12・5 (昭16・県師) 村上 恵久
(教育学部) 近藤 重明
(死亡年月日) (氏名)





会員写真館

テーマ 県内の紅葉

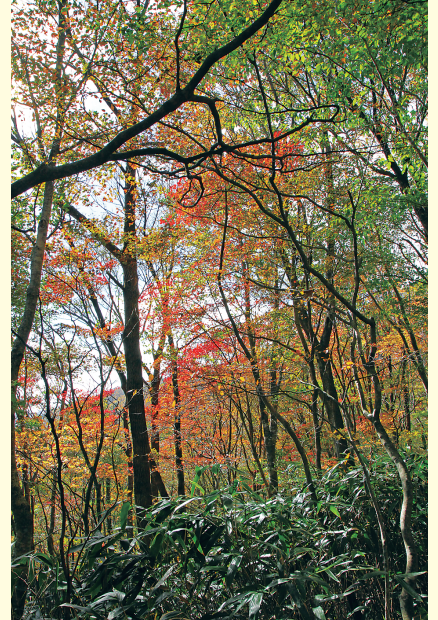
新しく会員の皆さんが撮った写真コーナーを作りました。
デジタルカメラやスマートフォンで撮った県内の各支部の
行事や景色などをぜひ送ってください。お待ちしております。



堀之内公園の秋



小田深山溪谷の秋



四国カルスト天狗荘周辺の秋

写真提供：バーバラ郁子（昭和52年卒） 写真送付先：dosokai@ed.ehime-u.ac.jp

— * — * — * — * — * — * — * — * — *

文芸欄 2

よく絵手紙とは、「心の贈り物」と言われています。相手に喜んでもらいたいの
の気持ちや、やさしさが絵に示されています。その作者の思いを伝えるためには、
やはりカラーでの紹介が必要と考え、この「文芸欄 2」のコーナーを作りました。

(同窓会事務局担当者)



この3枚は27ページにも掲載している井上弘子様を描かれたものです。